斎藤 應志
「市役所の見える西堀」
●1958年 油彩、板 17.0×22.6cm

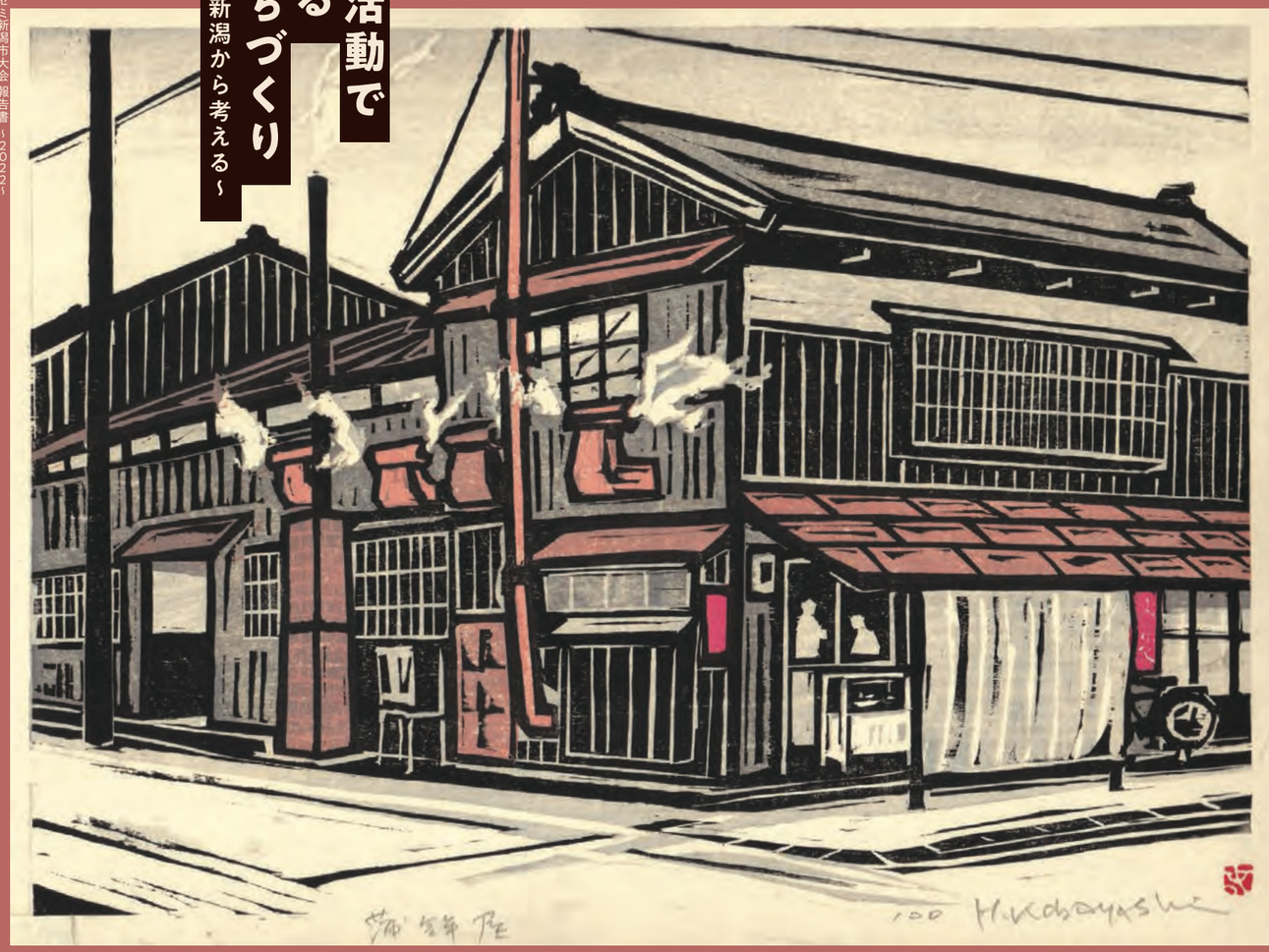
全体会会場：市民プラザが入居する複合施設NEXT21の敷地には、もともと西堀に面して市役所が建っていました。この場所は長岡藩（幕末は天領）の奉行所が有ったところです。

第45回
全国町並みゼミ新潟市大会

開催日：2022年6月11日（土）・12日（日）

〈主催〉第45回 全国町並みゼミ新潟市大会実行委員会
〈共催〉NPO法人全国町並み保存連盟
〈後援〉新潟県まちなみネットワーク、新潟市、新潟県
〈問い合わせ先〉第45回全国町並みゼミ新潟市大会実行委員会事務局（新潟まち遺産の会）
電話：025-384-0444　メール：chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp

市民の活動でつなげる歴史まちづくり
～みなとまち新潟から考える～



第45回
The National General Meeting for Historic 'Machinami' Towns, Niigata City

全国町並みゼミ新潟市大会 2022

報告書 Report / Vol.45

●主催 / 第45回全国町並みゼミ新潟市大会実行委員会　●共催 / NPO法人全国町並み保存連盟

はじめに

Preface

第45回全国町並みゼミ新潟市大会は2022年6月11日、12日の2日間にわたり開催されました。

新型コロナウイルス感染の第6波と第7波の間となった時期に、幸いなことに、約300名（うち約半数は県外）という多数の参加者とともに、ここ新潟市での初の町並みゼミを無事に、また充実した内容で開催することができました。開催にご尽力頂いた実行委員各位、スタッフのみなさん、ご共催頂いた全国町並み保存連盟、および連盟理事のみなさま、ご後援を頂きました新潟県まちなみネットワーク、新潟市、新潟県、国土交通省、文化庁他各位、そして町歩きやディスカッションを楽しみながら充実させてくださった、すべてのみなさまに感謝申し上げます。

本大会の開催趣旨は下記の通りでした。

「新潟」と「沼垂」は中世以前に起源をもつ湊（港）町です。ふたつの町をつなぐ萬代橋をはじめ、国の文化財となっている建築、庭園などが残されているのは第二次大戦の被害をほとんど受けなかったからです。大火、地震などの災害はありましたが、近世の姿を受け継ぐ町屋やお屋敷なども散在し、料亭中心の現役花街が歴史的姿を残す古町も近年注目されています。

堀の埋め立てが語るように、新潟市は時代の変化への対応を優先させ、歴史に根ざす個性の魅力を失いかけましたが、2000年代になると水辺、堀、寺町、町屋、近代建築、歴史ある商店街などから将来を考える市民運動が次々に生まれました。

本大会では市民による歴史まちづくりへの取り組みと新潟の現状を全国のまちづくり関係者に伝えるとともに、地域の歴史への関心をさらに深め、歴史まちづくりへの展望をひらく場としたいと思います。

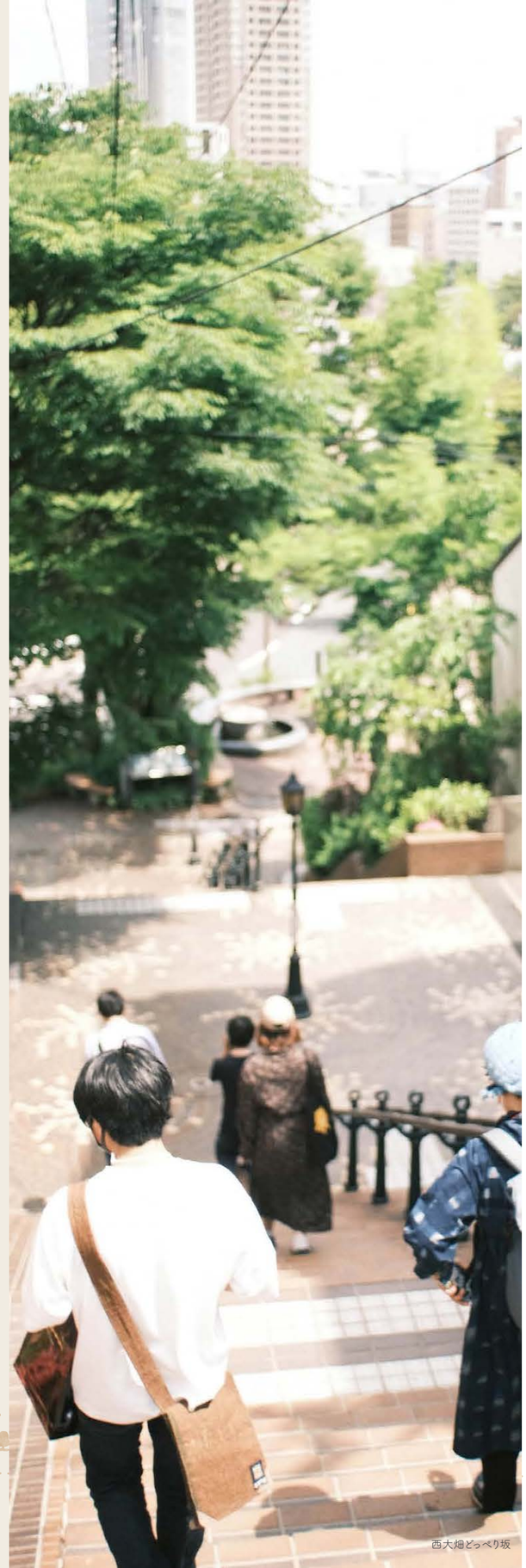
全体会で福川裕一さん（全国町並み保存連盟理事長）から今回の大会は45年におよぶ全国町並みゼミの歴史の中でも画期となる大会となったとの評価を頂きました。その評価を咀嚼（そしゃく）するなら、歴史的建造物や歴史的町並みは「保存すべき」価値のある町の一部であるだけではなく、人々が、暮らし、生きる場所である町全体を、生き生きとした「生命空間」（便利であるだけではなく、そこにいることが生きる喜びを感じさせる空間）であるために、まさしくかけがえのないものであることを確認した大会だったことにあると考えます。指定文化財や、重要伝統的建造物群保存地区の有無に関わりなく、すべての町にある、さまざまの古さの、歴史あるものの存在の、町そのもの（全体）にとっての重要な意味を確認できたことは、この催し（全国町並みゼミ）が日本のすべての町や地域に開かれていく、大きなきっかけになりました。

またアーティストのすぐれた感性が、時間の深みを含む町のさまざまな隠れた魅力を発見する導きとなることを確認できたことも、本大会のもうひとつの成果でした。

その歴史的な2日間の記録をお届けします。

重文・萬代橋

※本大会は新潟市の「コンベンション開催補助金」「コンベンションおもてなし補助金」「感染症予防対策支援補助金」と
新潟県の「新潟県コンベンション開催補助金」の助成を受けて開催されました。


西大畑どっぺり坂

2021年の奈良大会開催にあわせ、新潟市大会の予告動画「歴史都市がいま姿をあらわす」を作成した。プレイベントで踊り、第4分科会に参加した堀川久子が、白衣と下駄姿で市内の歴史ある場所をゆっくりとめぐる5分34秒。制作梨本諦鳴（たお）。

目次・スケジュール

Contents / Schedule

ご挨拶 …… 03
プレイベント …… 07
会場＆エリアMAP …… 08

▼6月11日（土）
12:30-17:30
まちあるき …… 09
第1分科会 …… 15
第2分科会 …… 17
第3分科会 …… 19
第4分科会 …… 21
第5分科会 …… 23
第6分科会 …… 25
18:30-21:00
交流会 / ブロック会議 …… 27

▼6月12日（日）
9:00-12:45
全体会 / 新潟市の町並みと歴史まちづくり …… 28
分科会報告 / 各地からの報告 …… 32
古町芸妓の舞 / 峯山冨美賞 …… 33
閉会式
（午後は、にいがた美しいまちなみフォーラム2022）… 34

▼6月13日（月）
9:00-17:30
オプショナルツアー …… 35

大会宣言 …… 37
大会決議 …… 38
全国町並み保存連盟加盟団体
新潟県まちなみネットワーク会員団体 …… 39
全国町並みゼミの開催地とテーマ …… 40
実行委員会・スタッフ / 関連イベント …… 41
新潟市大会の後援団体 / あとがき …… 42

ご挨拶

Greetings

Greetings

第45回全国町並みゼミ
新潟市大会実行委員長

大倉 宏

ふたつの輪が、ここにあります。

ひとつの輪には便利、清潔、利益、安全という言葉が、そして、もうひとつの輪には、美しい、充足という言葉が浮かんでいます。ふたつの輪は、離れてはいません。重なりあっています。

都市は生命体です。新陳代謝をくりかえし、変わっていきます。ふたつの輪が軸でつながれ、まちを次の時代へ運んでゆきます。第2次大戦から復興した日本全体では、そんな輪が動き、回りだし、都市の変貌が加速しました。

そのとき、なぜかひとつの輪だけが大きく、回り、もうひとつの輪がうまく回れずにいると気づいた人たちが立ち上がり、始めたのが「全国町並みゼミ」です。45年間、私のうしろの旗とともに、たくさんの町をめぐり、今日、ここ、新潟にやってきました。

美しいは、きれい、と同じではありません。充足は、便利と同じではありません。見るごとに、ながめるたびに、奥から新しいちがう輝きが踊りでるとき、人は美しいと感じ、充足を覚えます。

39年前に住み始めた新潟で、そんな美しさになんども出会いました。細い路地が町中をめぐり、木造の家々がビルの谷間にひっそり息づいていました。町中にかつて堀があったとも聞きました。

そんな過去の歴史の奥行きを知り、見、感じるごとに、新潟の美しさは深まりました。

けれど、同じころ、太くなりすぎた別の輪におしつぶされるように、古い建物、町屋や蔵が、洋風建築が、つぎつぎ壊されていきました。初めての保存運動をしたのはいまから四半世紀前のことです。

保存はまちを固定することではありません。それは歴史を潰そうとする力にむけられた悲鳴の言葉です。全国町並み「保存」連盟という名前に、わたしはそんな悲鳴がこの列島のさまざまな場所であがった時代の声を聞きます。

新潟の歴史の奥行きに感性で反応する人たちの姿が、まちのあちこちに見え始めたのは2000年代のことでした。建物だけではなく、堀、路地、寺、橋、そして門前の商店街や花街。行政よりさきに、そんな個人の市民たちが、もうひとつの輪をゆっくり回し始めたのが新潟です。

ささやかなそんな動きがつながって、まちは、少しずつ美しさをまたとりもどしてきました。まだまだですが、それでもこうしてみなさまに見て頂ける新潟になってきました。

そんな市民たちと一緒に準備した第45回全国町並みゼミ新潟市大会。歴史都市新潟が、いま、今日から、姿をあらわします。

新潟市の紀元ゼロ年、今日が1月1日です。歴史的なこの一日を、全国から集まったみなさんと、最後まで楽しみたいと思います。

ようこそ新潟へ。

Greetings

全国町並み保存連盟
理事長

福川 裕一

第45回全国町並みゼミ新潟市大会へようこそ。今回の新潟市大会は、45年に及ぶ町並みゼミの歴史の中でも、時宜にかない、画期になった大会として記憶にとどめられると思います。開会の挨拶でこのような「成功」を断言できるのは、開会式が2日目で、メインのイベントは昨日中に終わりそれが大きな成果をあげたからです。大きな成果とは、新潟市という人口80万人を擁する現代屈指の都市を舞台に、まち全体を歴史的環境としてとらえ、歴史まちづくりの場としてとらえることができたことです。

新潟はこれまで、重要伝統的建造物群保存地区に代表されるいわゆる「歴史的町並み」がある都市として、必ずしも認識されていませんでした。もちろん、新潟に重伝建地区になりうる地区がないということではありません。私はその候補になる場所はいくつかあるとおもいます。しかし、新潟では、従来型の歴史的町並みをいう概念を超えて、それより遥かに広がる新潟という歴史都市全体を舞台に、新潟まち遺産の会をはじめ、たくさんの市民活動が取り組まれ、成果を上げつつあります。昨日、私たち参加者は6地区にわかれて、それぞれの活動している市民団体の方々の運営のもとで行われた分科会に参加し、成果を学び、充実した討論を行うことができました。同様の活動に取り組む、全国の運動と経験の交流をすることができました。

実は、従来型の歴史的町並み地区でも、重要伝統的建造物群保存地区に選定されているのは歴史都市のほんの一部であって、その周辺の歴史的環境をいかに守るかということが大きなテーマとなっています。全国には、重要伝統的建造物群保存地区に選定された地区がないけれど、歴史的都市であって、それにふさわしいまちづくりを工夫する必要がある都市がたくさんあります。いろいろな事情で伝統的建造物群保存地区の制度の活用に踏み切れなかった歴史的都市もたくさんあります。さらに、21世紀以降は「歴史的」という言葉の範囲に近現代史も視野に入るようになりました。日本の近現代史を彩ってきた新潟はこの点でも絶好の舞台です。このような「歴史まちづくり」に取り組むため、この間私たち全国町並み保存連盟では、ユネスコが2011年に勧告したHUL（歴史的都市環境）という考え方について学んできました。今回の町並みゼミのテーマ「市民の活動でつなげる歴史まちづくり：みなとまち新潟から考える」は、まさにそれと軌を一にするものです。

もちろん、まだスケジュールが終わったわけではありません。これから全体会があって、分科会の報告や宣言文の発表があり、午後には記念講演やパネルディスカッションと続きます。これらを通して、昨日、私達が経験したことが確実に整理され、明日の私達の活動への糧にする成果になると確信しております。昨日に続き、本日も一日有意義な時間を過ごすことができることを願って、私の挨拶をさせて頂きます。

Greetings

新潟市長

中原 八一 様
（朝妻 博 副市長代読）

本日は、第45回全国町並みゼミ新潟市大会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また開催都市を代表いたしまして、全国からお越しの町並み保存に取り組んでおられる皆様を心から歓迎申し上げます。

さて、本市は、江戸時代に日本海側最大の北前船寄港地として栄えた都市であり、安政5年に開港5港の1つとして指定され、平成31年には開港150周年を迎えました。

この会場近くでは、みなとまち新潟を象徴する日本一の大河である信濃川や、国指定重要文化財の萬代橋をご覧頂くことができます。

この大会に出席するためにご利用頂いた方もおられるかと思いますが、現在、新潟駅が約60年ぶりのリニューアル工事を行っており、新潟駅から古町地区を繋ぐ都心エリアを「にいがた2km」と名付け、市をあげて活性化に取り組んでいます。

【次ページへ続く→】

この会場が位置する古町地区の町は、江戸時代初期に日本海寄りの場所から現在の位置に移転し、南北方向に「通り」、東西方向に「小路」が形成され、堀が設けられました。

昭和30年代までに堀はすべて埋めたてられましたが、第二次世界大戦の戦災が少なかったことから、通りや小路などの都市構造は継承され、昨日分科会が行われた古町花街地区などをはじめ、歴史的建造物が各所に残っています。

また、湊から河川の舟運（しゅううん）で繋がる内陸部にも在郷町（ざいごうまち）などの歴史的な町並みが残っており、これらを活かしたまちづくりに官民連携で取り組んでいるところです。

本日お集まりの皆様の多くは、それぞれの地域に残る歴史的な町並みの保存活動に長年にわたり取り組んでおられると伺っております。

皆様の取組事例を参考にしながら、本市の歴史的な町並みの魅力をさらに引き出し、価値を一層高めていきたいと思います。

結びに、全国で歴史的な町並み保存に取り組んでおられる皆様の活動の発展と、貴重な歴史的な町並みが将来に渡って継承されること、ならびに、ご参加の皆様のご健勝を祈念いたしまして、歓迎の挨拶とさせて頂きます。

Greetings

国土交通省都市局公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室 課長補佐

森井 康裕 様

第45回全国町並みゼミ新潟市大会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

この度、「第45回全国町並みゼミ」が、このコロナ禍の中、この場にたくさんの方のお集りのもと、無事に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、このような機会を頂きましこと感謝申し上げます。

さて、我が国では、古くから城や神社仏閣、宿場、港などを中心に多くの市街地が形成され、現在においてもその歴史的価値の高い建造物やその周辺の町並みが魅力的な情緒や風情、たたずまいを醸し出しています。

このような町並みは、地域の歴史、文化、伝統を伝えるための重要な観光資源でもあり、地場産業の振興や交流人口の増加など、地域活性化につながるとともに、シビックプライドの醸成や、持続可能な地域づくりの基盤となるなど重要な意味を持つものと考えております。

ここ新潟市に置かれましても、江戸時代に北前船の寄港地として栄え、その面影を数多く残している都市であると思っております。私、昨日少しばかり、この周辺の古町界隈や、白山公園、小沢家住宅、等を拝見いたしました。

一方で、全国様々な地域において、歴史的な建造物の滅失や、景観の悪化など、歴史的な町並みが失われていく事例も多く見られております。

今回、45回目の全国町並みゼミということでありますが、長きにわたり様々な活動を行い、町並みの保全に努められてきた皆様方への敬意と感謝を改めて感じております。

国では、遅ればせながら平成20年に「歴史まちづくり法」が制定されました。歴史まちづくり法については今年で14年目となり、皆様の45年にも及ぶ活動と比べますとまだまだというところでございますが、現在、歴史まちづくり計画の認定を受けている都市は87都市となりました。これらの取組も全国に浸透してきているものと感じております。

また、これらはひとえに皆様方が、様々な活動を続けて頂いている成果でもあると思っております。

この「全国町並みゼミ」の取組は、まちづくり団体、専門家、行政担当者が一堂に集い、町並みの保存や魅力発信、課題や事例についての情報交換などを行い、歴史的資源のまちづくりへの活用を図るものであり、まさに国の取組の方向性とも合致したものであり、皆様方の今後の活動にも引き続き大いに期待しているところでございます。

結びに、関係者様の多大なるご尽力に改めて感謝を申し上げるとともに、この2日間にわたる、「全国町並みゼミ」での活発な情報交換、意見交換により、皆様方の取組が今後ますます発展していくこと、また、本日お集まりの皆様のますますのご活躍・ご健勝を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせて頂きます。

Greetings

文化庁文化財第2課 主任調査官

梅津 章子 様

第45回全国町並みゼミ 新潟大会の開催に当たり、文化庁として一言、御挨拶申し上げます。

今回は事務局の方々の御尽力により、3年ぶりでの全面的な対面により、無事に開催されますこと、衷心よりお慶びを申し上げます。

さて、歴史的な集落や町並を保護する制度として、伝統的建造物群保存地区（いわゆる伝建地区）制度が創設されたのは、昭和50年、1975年のことです。

今から47年前、ほぼ半世紀前になります。

制度創設の契機となったのは、昭和40年代に広がりを見せ始める、市町村独自の条例に基づく歴史的集落・町並の保存制度であり、更にその背景には全国各地で繰り広げられていた、国民の方々の保存活動がありました。

こうした、皆さんの思いや活動が国を動かして、法律が改正されたのは、いうまでもありません。その前年には全国町並み保存連盟が結成されております。

当初は真に失われつつある"町並を残したい"という熱意が中心だったと思います。

しかし50年を経るにつれて、次第に文化財を活用するための一つのツールとして捉える地域も増えてきました。

景観法や歴史的まちづくり法の制定も、文化財を活かしたまちづくりを後押しするようになったといえます。

こうした動き自体は、文化財が博物館や美術館に隔離されたものではなく、人々の生活の中で維持されることになり、目指してきた「生きた町並」を残し、継承することになります。

しかし、改めて各地での取り組みを見返してみると、制度を維持するのに欠かせないのは、伝統的な建造物を中心とした町並やそこで繰り広げられる文化があることはもちろんのこと、保護する枠組を構築する行政、そして何より支える人々の意思が大切であることを新ためて感じているところです。

町並みの保存の主役はそこに関わる人々であり、地域住民に加えて、学識経験者の方々、文化財を支える技術者・技能者、そして行政の協力態勢が不可欠です。

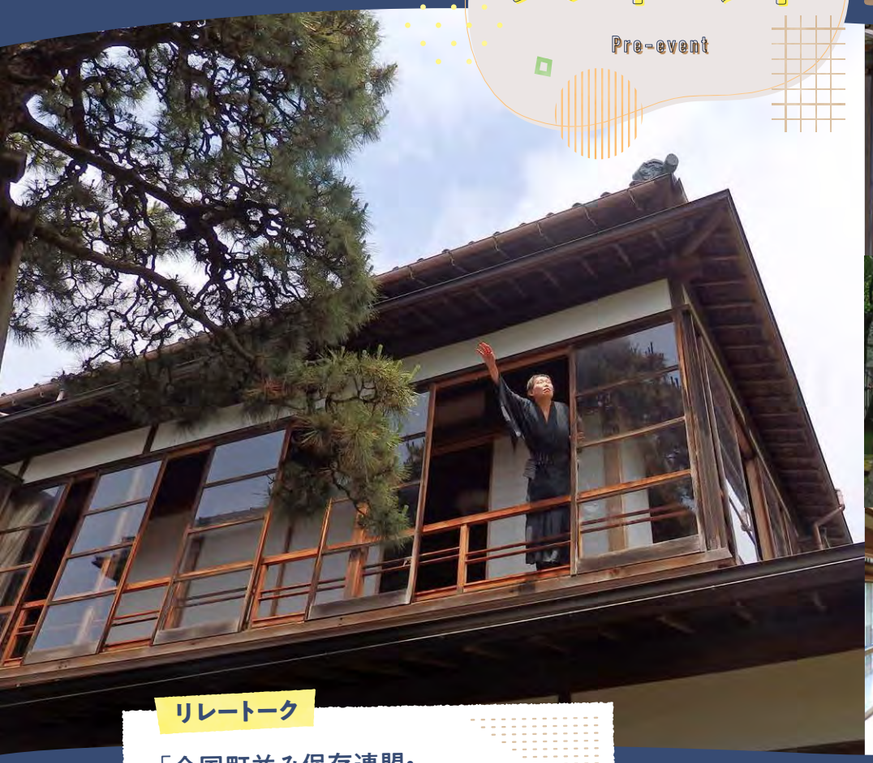
毎年、住民、有識者、行政等、様々な立場の人々が一堂に会し、町並みの保存に関して真剣に議論を行っている、この全国大会は、明日の町並みを担う人々をつくり、育み、ネットワークを発展させるという点で、大変意義深いものです。そして、このネットワークこそが、全国の町並保存の理念や技術の発展の礎となるものです。

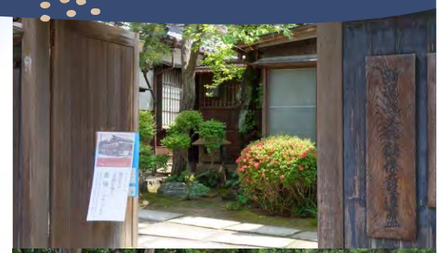
第45回大会が成功裏に終了し、町並み保存のさらなる気運の盛り上がりにつながりますことをお祈り申し上げます。

最後に、新潟大会を支えている実行委員会、新潟市を始めとする行政の方々や学識経験者の先生方、そして住民の皆様に日頃のご努力に敬意を表するとともに、全国町並みゼミの益々の御発展を祈念し、私の挨拶とさせて頂きます。

プレイベント

Pre-event





リレートーク

「全国町並み保存連盟・全国町並みゼミと私」

2022.6.10（金）16:00-17:30
砂丘館（旧日本銀行新潟支店長役宅）／定員：20人

前年の奈良大会で、過去の町並みゼミに関わった方々の熱い思いを聞いた大倉宏・実行委員長の提案から実現したプログラムである。大倉実行委員長が台本なしで、これまで開催した全国町並みゼミの運営に関わった理事や参加した会員12人からお話を引き出したことで、町並みゼミの歴史まちづくりではたした役割やその後の展開などが鮮やかに浮かび上がり、来年の小樽大会の運営メンバーに熱い思いをつなげることができた。この模様はYouTubeで配信し、後日、本編（95分）とダイジェスト版（8分34秒）に編集して、町並み保存連盟のHPに掲載する。引き続き会場の砂丘館では、町並み保存連盟の2022年度総会を3年ぶりに対面で開催することができた。

堀川 久子

「空間を舞う」

2022.6.11（土）10:00-11:00
北方文化博物館新潟分館／定員：30人

初夏の光が注ぐ日本庭園の隅から踊り手が姿をあらわす。

踊り手は観客のあいだを抜けて築山へ。枯山水の池に架けられた石橋に腰かけ幼子のように、また老女のように表情を変える。頭上では鳥たちが鳴いている。生き物のような声を踊り手も発して、観客の散らばった前庭へ移動すると、観客たちも位置を変え、茶室「座忘」からさらに室内へ。薄暗い座敷を動き、走り、最後はこの家で晩年を過ごした會津八一が潮音堂と名付けた二階座敷の窓から薄日の差す空へ手をさしのべて終わった。場所の空気が踊りに揺らされ、かもされて、見る側の心に吹き込んでくるような時間だった。

会場＆エリアMAP

Area map

受付　6月11日（土）10:00～12:00　ホテルイタリア軒
6月12日（日）8:30～　新潟市民プラザ（NEXT21 6皆）

参加費　〈一般〉5,000円　〈連盟会員〉4,000円　〈学生〉3,000円

●ホテルイタリア軒について

1874年に曲馬団のコックとして来日したイタリア人が病気で日本に取り残された時、当時の県令の援助により牛肉店を開き、その後西洋料理店として人気を集め「新潟の鹿鳴館」と呼ばれるように。1976年から現在の名称・ホテルイタリア軒となりました。

参加申し込みについて　※参加申し込みは、独自に作成したインターネット上のフォームまたはファックスで受け付けた。

ホテルイタリア軒

NEXT21

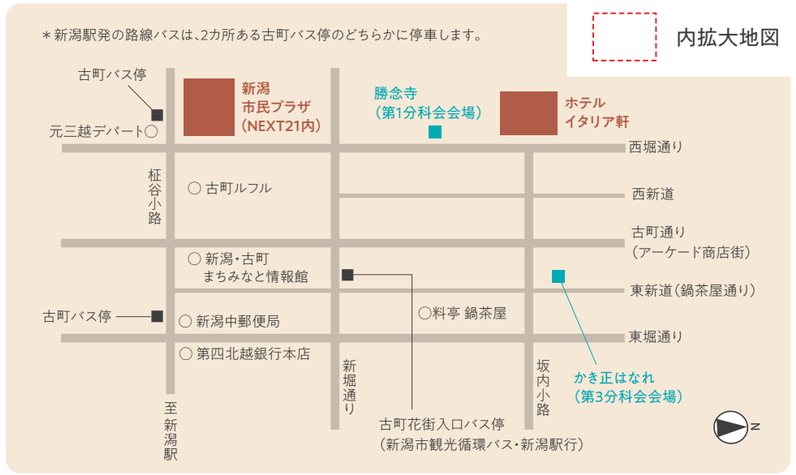
砂丘館

新潟市美術館

NSG美術館

勝念寺

※第1分科会はみなとまち全体



旧小澤家住宅

魚や片桐寅吉

料亭かき正

上古町の百年長屋SAN

三社神社

ほんぽーと新潟市立中央図書館

まちあるき

Town walk

柾谷小路の新潟市道路元標

メインストリート柾谷小路と本町通の交差点にある国道の起終点。主要国道の7、8号はじめ7本の国道が交わる。旧街道の元標は白山神社にある。

西堀寺町の宗現寺さま

スタート地点・勝念寺さま隣にある禅宗のお寺さま。ホテルイタリア軒の脇で目立たないが、門前は緑の木々が美しく街なかのオアシスとなっている。

Start!

日和山の住吉さま

新潟町の北限にあり、かつて港へ入る船を水先案内（水戸教）していた場所。海と街とを一望できる名所だった。現在は五合目に洒落たカフェがある。

堀跡の人情横丁

昭和の雰囲気が残るマーケット。本来は生鮮市場だったが、現在は飲食店や雑貨店がならぶ。ここには信濃川から街なかへ入ってゆく掘割があった。

本町市場の白龍大権現さま

本町市場はかつて市民の台所と呼ばれていて、今も野菜の露店が並んでいる。アーケードを抜けた所にある神社は、商売繁盛を願って建立された。

古町花街の路地と新道

置屋・待合・料理屋の建物が300m四方の花街に点在し、新道（しんみち）とヘヤナカサ（路地）が縦横に交わる。次々に表情が変わる都市の迷宮。

第1分科会

Breakout session

港町と水辺をめぐる街の散策は、新潟まちあるきカリスマ・野内さんが案内するAコース、分科会担当の川上が案内するBコースに分かれ、寺町・花街・堀跡・市場・砂丘・神社など、旧市街地のさまざまな表情が時代とともに変化してきたようすを、じっくり体感してもらった。

【Aコース】勝念寺 → 古町花街 → 柾谷小路 → 金融街 → 六軒小路 → 下本町商店街 → 旧遊郭 → 砂丘 → 日和山 → 西堀 → 勝念寺

【Bコース】勝念寺 → 西堀寺町 → 古町花街 → 旧問屋街 → 旧金融街 → 本町市場 → 人情横丁 → 古町商店街 → 西堀 → 勝念寺

第2分科会

Breakout session

住民提案を経て、令和2年に新潟市景観計画の特別区域に指定された旧小澤家住宅周辺地区を中心に、地域住民に愛される商店街・フレッシュ本町や、新潟島のまちあるき拠点になっている日和山・住吉神社など、湊町新潟の歴史と生活文化を色濃く感じられるコースを2班に分かれて巡った。

旧片桐家住宅 → 旧小澤家住宅 → OTONARI（登録文化財の土蔵） → 曙公園 → 笹団子 → 本町14番町 → 日和山・住吉神社 → 吉祥院 → フレッシュ本町

Start!

旧片桐家住宅（魚や片桐寅吉 / 港茶屋）

新潟の漁業の発展に貢献した片桐家の主屋と土蔵は、登録文化財と新潟市景観重要建造物になっている。上大川前通沿いのブロック塀も黒塀風に修景された。まちあるきに先立ち、この歴史的な建物でお刺身を頂いた。

上大川前通12番町の町並み

新潟市文化財の旧小澤家住宅や登録文化財の高須家住宅が建ち並ぶ上大川前通12番町は新潟市景観計画の特別区域に指定され、独自の景観誘導が行われている。

新潟名物・笹団子

まちあるきの小休止は新潟名物の笹団子。行列に並んでいる間は、新潟大学都市計画研究室作成のまちあるきマップで、地区のことを学ぶ様子が見られた。

本町14番町と路地

切妻妻入の町屋が残る本町14番町の町並み。路地に入ると長屋が建ち並ぶ、表通りとは全く異なる風景が広がる。

日和山・住吉神社

まちあるきの拠点になっている日和山を登山。山頂にある住吉神社の修理をはじめ、5合目・7合目の整備など再生が進んでいる。

フレッシュ本町

懐かしい雰囲気を感じさせてくれるフレッシュ本町は、毎日、露店市が立つ珍しい商店街である。地域住民の台所として愛されている。

第3分科会
Breakout session

花街のメインストリートである東西「新道」や多様な景観が味わい深い路地を通り、鍋茶屋や旧有明等の現役料亭や旧料亭、今は飲食店等に活用されている旧置屋・旧茶屋を見て歩くことで、古町花街、ひいては新潟の歴史を体感頂いた。終点では、料亭・かき正本館の内部を特別に見学し、数寄屋の瀟洒な意匠も堪能頂いた。

かき正はなれ → 旧美や古 → 旧有明 → やひこ → 旧有明横路地 → 六軒小路 → 金辰 → 西堀 → 旧初田中横路地 → 大丸横路地 → 古町通り北上し置屋長屋 → すず家 → 西堀を南へ（寺町） → ホテルイタリア軒 → 新堀 → 西新道 → きらく → 鍋茶屋大門 → バー町田 → 旧花岡邸 → 鍋茶屋 → かき正本館

Start!

東新道

料亭やひこ、旧有明、旧美や古、市山邸（日本舞踊市山流家元自宅兼稽古場）、分科会会場である料亭かき正など、花街に関わる歴史的な建築物が数多く残る。佐藤と久保による案内でまちあるきがスタート。

旧初田中横路地

西堀通りから路地を抜けて西新道へ。古町には「ヘヤナカサ」と呼ばれる両側から敷地を出し合う路地があり、独特な景観が残る。

西新道

大丸、寿ゞむらなどの現役の料亭・茶屋が並ぶ花街のメインストリートのひとつ。案内役がその歴史と町並みの魅力を解説した。

置屋長屋

古町通りから西新道までつながる戦前建築の長屋であり、かつて多くの古町芸妓が居住した置屋。地区内で唯一残る貴重な建物。

かき正本館

まちあるきの最後に料亭かき正の本館内部を見学。貴重な木材や凝ったデザインが随所にみられる数寄屋造りの魅力に、参加者からは感激の声がもれた。

広小路

かつて掘割があった街路。昭和30年代に堀が埋め立てられたが、平成の拡幅時に植えられた柳が当時の風情の一端を今に伝える。

第4分科会
Breakout session

新潟の山の手西大畑旭町かいわいのまちあるきは、北方文化博物館の博学学芸員伊里さんと分科会担当の大倉、そしてシティガイド高橋さん、芳賀さんが案内する4グループに分かれ2コースでおこなった。屋敷町でありながら路地や長屋（セミデタッチドハウス）もあり、砂丘、坂道、松林、海もある町の魅力を探す一時間半はあっと言う間に過ぎて、分科会会場の新潟市美術館へ。

【Aコース】NSG美術館 → 砂丘館 → カトリック新潟教会 → 安吾風の館（旧市長公舎） → 旧副知事公舎 → 北方文化博物館新潟分館（登録文化財） → 旧齋藤家別邸（国指定名勝） → 行形亭（登録文化財） → 新潟市美術館

【Bコース】砂丘館 → NSG美術館 → ゆいぽーと → 安吾風の館（旧市長公舎） → 新潟大神宮 → 北方文化博物館新潟分館（登録文化財） → 旧齋藤家別邸（国指定名勝） → 行形亭（登録文化財） → 新潟市美術館

4つの班に分かれて出発

Start!

モダニズム建築のNSG美術館と近代和風住宅である砂丘館の2箇所から4班に分かれて出発。海岸の砂防林を抜けるコースと、モンマルトルを思わせるどっぺり坂を下る2コースで散策を開始。

NSG美術館

松の影が白壁にはえる建築は、新潟の近代建築を多数設計した長谷川龍雄を父に持つ建築家長谷川洋一の代表作。

砂防林

旧市街と海の間にそびえる砂丘の上に伸びる松林は、飛砂防止のため幕末に天領となった新潟に赴任した初代奉行の川村修就（ながたか）の指示で植えられたもの。林のなかに立つ修就の銅像を前に町の歴史を解説。

砂丘館

「旧日本銀行新潟支店長役宅（砂丘館）」は昭和初期の近代和風建築。現在は芸術文化施設になっている（新潟を描いた画家斎藤應志展開催中の蔵を見学）。

カトリック新潟教会

昭和2年建設の「カトリック新潟教会」（設計はM.ヒンデル）。この脇にかつて異人池と呼ばれた池があった。砂丘のふもとの湧き水でできた美しい池の周囲にはポプラが植えられ、観光名所だったが、戦後湧水が枯れて姿を消し、美しい教会だけが往時を偲ばせる。

安吾 風の館

大正時代の洋館付き住宅の遺構、旧新潟市長公舎。現在は西大畑で生まれた作家坂口安吾の資料を常時企画展で紹介する「安吾 風の館」として活用されている。ダイナミックな枯山水庭園は新潟の造園会社芳樹園による平成の庭園。

新潟大神宮

新潟のお伊勢様として崇敬される神社。旧齋藤家別邸との間の道は、砂丘をきり通して作られたもので、そこに坂口安吾の生家があった。境内には安吾の生誕碑がたっている。また戊辰戦争の東軍の戦死した兵士を慰霊する殉節の碑もある。

旧齋藤家別邸

新潟の豪商であった四代齋藤喜十郎が、大正7年（1918）に別荘として建築した庭園と建築は、砂丘の斜面を利用して海辺でありながら山中に来た錯覚を与える。保存を求める市民運動に後押しされ新潟市が2009年に公有化し、現在は観光地としてにぎわっている。

第5分科会
Breakout session

白山神社や愛宕神社の門前町上古町商店街は、2004年頃より若い商店主等が自主的にイベント活動等行い、若い人のお店が面白いことをやっているエリアとの認識で若者を中心に集客が増え、出店希望者もあとを絶たない古き魅力と新しい魅力が融合した商店街となった。

白山公園（国指定名勝）→ 県政記念館（国指定重要文化財）→ 上古町商店街1番町（町屋建物に若者が立て続けに出店）→ 神明宮・愛宕神社 → 上古町商店街2番町（アーケードの説明）→ 上古町商店街3番町（老舗店舗、若者の店混在）→ 新川小路 → 西堀（寺町）→ 新津屋小路 → 上古町商店街4番町（信濃川なりに曲がる通り）→ 上古町の百年長屋SAN

Start!

白山公園

スタート地点の白山公園は日本で最初に開設された都市公園の一つ。白山神社と一体となりカミフルマチの始点となる。

県政記念館

国指定重要文化財である新潟県議会議事堂は白山公園に接し、このエリアが歴史を感じられる街ということを象徴する。

商店街2番町

アーケード建設を契機に商店街主の多くが自らのまちづくりに関わり始めた。そういったアーケードにまつわるカミフル物語を地元語部から聞く。

愛宕神社

1700年代の建物で市指定有形文化財。商店街で繰り広げられる「明和義人祭」を執り行う神社でもある。

商店街3番町

上古町商店街老舗和菓子店店主から、歴史と新しさを交えたカミフルマチの活動や商品開発など新たな道を歩み始めている歴史ある商店街の魅力を聞く。

西堀（寺町）

路地を抜け西堀通りに出るとそこは寺町。新潟の約500年の歴史を感じさせるこの寺町との近さもカミフルが歴史を感じる要素か。

新津屋小路

上古町商店街最下手にある餅店は明治16年創業の歴史を持つ。店の歴史、街の歴史が染み出る店頭で新潟町の歴史を垣間見る。

第6分科会
Breakout session

今回唯一信濃川右岸をめぐるコースとなった沼垂・天明町界隈をめぐるまち歩き。蒲原平野を背後に控え、かつて味噌・醤油、酒などの蔵が川沿いに立ち並び舟運でも栄えた沼垂町から、明治期までは葦原だったものが、昭和の開発で路地の入り組んだ住宅街となった天明町界隈を90分かけて歩きました。

ほんぽーと（新潟市立中央図書館）→ 此処に古信濃川の流れありきの碑 → 万代島ルート線 → ゲストハウスなり → 沼垂テラス商店街界隈 → 沼垂四ツ角 → 万代町通り → 天明町T-Base-Life → 流作場鎮守 三社神社

Start!

ほんぽーと

42名が6班に分かれてスタート

此処に古信濃川の流れありきの碑

かつて古信濃川が分流してきたことを示す「此処に古信濃川の流れありきの碑」前にて

万代島ルート線

幅員66mの都市計画道路が沼垂町を貫き、界隈の景観を一変させた。第一京浜国道品川駅前の二倍強もの高規格道路は何をもたらすのだろうか

ゲストハウス「なり」

地域の賑わいを取り戻した中心地「沼垂テラス」にも程近い小路に、ゲストハウス「なり」はある

沼垂テラス商店街界隈

舟運により蒲原平野の穀倉地帯からの荷を、北前船つなぐ重要な中継地であった名残を示す道具類の壁面アート

古家を再生利活用した工房

細い路地の複雑に交わる天明町界隈を歩いていると、古家を再生利活用した工房やお洒落茶房に出逢う

天明町界隈

明治の頃までは信濃川右岸に広がる葦原で、埋め立て当初は果樹園広がっていたという天明町界隈

第1分科会
Breakout session

港町と水辺のまちづくり

2022.6.11（土）/ 勝念寺　●定員：50人

趣旨と目的

日本海と信濃川を結ぶ新潟は、かつて町じゅうに掘割をめぐらせていた湊町で、その水景による風情と水運による交易で多くの旅人が訪れていた。

その掘割が埋められ町並みは変わったが、宿屋・商店・市場などがまとまる街区と、中心には花街があり後背には寺町をもつ構造は、変わらずに残されている。

ながらく記憶を受け継いできた湊町が、新たな魅力をもつための「港町と水辺のまちづくり」を語り合う。

会場紹介　勝念寺

勝念寺（しょうねんじ）さまは、加賀国で開基して中世に越後へ、新潟町建てとともに西堀へ移設。

寺院入口の掘割に架かっていた石橋の親柱や、墓地に咲くみごとなサクラの木々は、一見の価値あり。

担当団体紹介　NPO法人堀割再生まちづくり新潟

ＮＰＯ法人堀割再生まちづくり新潟は、湊町の象徴であった堀割を復活・再生または創造して、水と緑の自然環境をつくり、住む人がイキイキと、訪れる人がワクワクする町並みへと育んでいく活動をしている。

登壇者プロフィール

●コーディネーター
大森 洋子
久留米工業大学 教授、全国町並み保存連盟 理事

●コメンテーター
岡本 哲志
岡本哲志都市建築研究所 代表

●パネラー
小笠原 眞結美
小樽運河新世紀フォーラム 副会長、小樽商工会議所女性会 会長

磯田 一裕
直江津プライド2021 代表

川上 伸一
堀割再生まちづくり新潟 代表理事

パネラー等からの報告

1.港町と水辺のまちづくり～話題提供

岡本 哲志 ▸▸▸

新潟湊は、川筋の変化によって町を移転した。常に水と砂に悩まされつつも、抗わずに付き合ってきた。
町に巡らされた内水路（掘割）はオープンな雰囲気で、通り・小路・新道・路地などの道は銀座と同じ構造。

時代に見合う整備を重ね、特徴ある町並みを形成してきたが、今また変わる社会状況のなか、利便性を残しつつ新たな水辺復活を考えてはどうか。

2.「港町小樽」の誇りを繋ぐ

小笠原 眞裕美 ▸▸▸

小樽は石狩湾の西海岸、天狗山の裾野に広がる町。北前船の寄港や開拓民の流入で、港は発展し近代化が進んだ。一方で衰退した小樽運河を守るため市民の会が発足、水辺空間を生かした、歴史のシンボルとして運河を保存する活動が、紆余曲折を経て続いている。

小樽の光は運河であり、市民が楽しめる場とするべき。若い世代に伝えながら、小樽の明日を考えてゆきたい。

3.海と陸の交差点・直江津での取組と町並みづくり

磯田 一裕 ▸▸▸

古来より続く港町・直江津は、近代に鉄道整備も進められた交通の拠点。その歴史ある町並みや水辺を生かすグランドデザインを、市民と共に描いている。

海岸と川の景観を向上させるためのアート展開や清掃活動の市民プロジェクト。町家と雁木の修景や、魅力ある座敷蔵を保存する事業。課題は多いが、お祭りでは勢いづく直江津気質に期待して活動を続けたい。

4.湊町にいがた～港町ニイガタへ

川上 伸一 ▸▸▸

川と海のせめぎあいで砂丘ができ町が生まれた。水郷地帯のため舟運が発達、湊町新潟は堀をつくり利便性と風情を合わせもって、交易で繁栄してきた。

その古い水景は消えたが、今は新しい親水空間が出現して市民の憩いの場となっている。とても居心地のよいこのスペースを海・川・潟・堀の水辺に増やし、自然とともに人がゆったり暮らせる新潟を目指したい。

ディスカッション

まず新潟を歩いてみて、古町には京都先斗町のような雰囲気があり、花柳界の文化が感じられるという印象や、町の人がイキイキとしてポジティブに見えるのは、いつも人に見られているからだろうという感想あり。これらに対し街は歩くほどに生い立ちが分かり、見えない良さも分かり、誰かに伝えたくなるものだというコメントがあった。

つぎに市民活動が盛んな新潟は、江戸時代の自由な気風を受け継いで、眠れる資産を掘り起こしているという説に対し、自分が住む町の新しい魅力を知り、それを育み活かす活動を続けているという意見や、その町の魅力を市民に知ってもらい元気になってもらうため、アートを活用しているという意見があった。

そして本題。港町は水辺からの眺めに本来の姿あり。新潟は川辺と海辺の両方の魅力を生かして、ノスタルジーではない堀再生を目指すべきだ。道路や鉄道より水運がコスト面で有利という独自の考えを広めれば、掘ることが当たり前になるだろう、という提言があった。

まとめ

むすびに、それぞれの町がもつ特徴的な歴史や文化を市民がよく理解し、その背景を生かした新しいまちづくりを市民が主体となって進めようと、まとめられた。

第2分科会
Breakout session

住民による町並み保全制度の選択

2022.6.11（土）/ 北前船の時代館　新潟市文化財 旧小澤家住宅

●定員：25人
●参加費：1,500円（昼食代）

趣旨と目的

2000年代になって景観法と歴史まちづくり法が相次いで成立し、近年は文化財保存活用地域計画が誕生するなど、町並み保全のための制度や支援の仕組みは充実の一途を辿ってきた。一方、少子高齢化や人口減少に伴い、空き家の増加や担い手不足などの問題に苦慮する地域も多い。このような社会的課題を前に、町並み保全に関わる私たちはどのように仕組みを選択し、協働相手を増やしながら活動を展開できるか。将来を見据えて町並み保全の戦略を議論する。

会場紹介　北前船の時代館 / 新潟市文化財 旧小澤家住宅

廻船業などで財を成した旧小澤家住宅は、新潟市を代表する丁字型の町屋建築である。2002年に新潟市へ寄贈され、現在は市指定文化財として公開されている。歴史や伝統文化の発信拠点として地域に愛されている建物である。

担当団体紹介　旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会

旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会（以下、考える会）は、廻船問屋の旧小澤家住宅や網元・鮮魚問屋の旧片桐家住宅など、湊町新潟の風情が残る歴史的市街地を舞台に、町並み保全のルールづくり、伝統文化の発信、夜間景観の演出を実践している。

登壇者プロフィール

●コーディネーター
松井 大輔
新潟大学 准教授

●コメンテーター
村上 佳代
文化庁地域文化創生本部 文化財調査官

●パネラー
梅宮 路子
公益財団法人日本ナショナルトラスト 事業課長

清水 徹
アトリエ縁 代表 / 一般社団法人佐渡ヘリテージ協議会 監事

高須 雅史
旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会 事務局長

パネラー等からの報告

1.地域住民の視点から

高須 雅史 ▸▸▸

旧小澤家住宅周辺地区における住民と行政、大学などの協働による町並み保全の取り組みが紹介された。考える会を中心に、湊下町展というイベントを通した地域文化（屏風・漆器など）の発信、夜間景観の演出を行う。住民提案による高さ制限を含めた景観計画特別区域の指定や登録文化財・景観重要建造物の増加、空き家を活用した店舗の誕生など制度選択の実態や効果が説明された。

2.専門家（建築士）の視点から

清水 徹 ▸▸▸

歴史的建築物の改修実例が豊富な写真とともに紹介された。歴史的建築物を守るために保存と活用は両輪であり、保存には徹底した現地調査による現状把握や修復の知識、活用には正しい制度理解と既成概念にとらわれない横断的知識が重要と指摘された。一人でできなくとも、歴史的建築物について見方を増やすことで味方を増やし、相談できる仲間と仕事を作ることの大切さが説かれた。

3.中間支援組織の視点から

梅宮 路子 ▸▸▸

日本ナショナルトラストの地域遺産支援プログラムを通した、地域内の関係構築や支援の実態が紹介された。岐阜県白川村では、白川郷や茅文化に興味がある若者のネットワーク構築や茅刈りイベントの開催など、多様で楽しげな取り組みが連続的に進む。東京に拠点を持つ非営利組織が俯瞰的かつ適度に関与することで、制度選択後の町並み保全の体制づくりを促す可能性が指摘された。

ディスカッション

コメンテーターを交えたディスカッションは「住民主体の町並み保全と制度・支援の変化」と「旧小澤家住宅周辺における制度選択の可能性」の二つが大きなテーマとなった。地元から「制度を選択する前の説明会などに、地域住民が参加してくれない」という相談があり、これを軸に議論を進めた。制度選択に向けた体制構築は重要だが、地域づくりへの参加者は当該地域の居住者以外にも求められることや、地域内の反対をせずに理解してくれる層も重要であることが指摘された。自治体や地域レベルで将来像を作って共有することができれば、必ずしも同じ活動をしていなくても一体性が生まれるというのも重要な指摘だった。制度面では、2000年代以降にボトムアップ型の制度（歴史まちづくり法や文化財保存活用地域計画など）が相次いで誕生し、国もこのような動きをサポートしようとしている点が説明された。適切な制度選択をするために、体制や将来像という基盤を整えることが重要という議論だった。

まとめ

住民が町並み保全制度を選択する機会は多様であり、突然やってくる。また、制度を選択して整備した後も、町並み保全の活動は長く続く。大切なのは制度選択前後の基盤づくりなのであろう。しかし、義務感だけではここに多くの参加者を望むことはできない。分科会では、全国各地で楽しみながら多様な主体が関わることができるような枠組が展開されていることが紹介された。これが次世代の町並み保全の戦略なのだと確認することができた。

第3分科会
Breakout session

花街のまちづくりと文化的景観

2022.6.11（土）/ 料亭 かき正

●定員：30人
●参加費：1,500円（昼食代）

趣旨と目的

花街は、舞踊や邦楽、着物、書画骨董、茶道、会席・郷土料理、方言、建築、庭園、路地など、日本の、そして地域固有の有形無形の伝統文化を包括的に継承する稀有な空間と言える。全国随一の伝統的料亭街・古町花街には、こうした様々な伝統文化を支えてきた料亭や芸妓の生活文化と、それにより形成された歴史的景観がともに現在に継承されている。本分科会では、花街の文化的景観としての価値や今後の保全手法について考える。この分科会では料亭「かき正」にて昼食をお召し上がり頂く。

会場紹介　料亭 かき正

昭和4年創業の老舗料亭。本館は昭和4年建築、3階部分のみ昭和20年代の増築。かつて俳人の高浜虚子らの句会も開かれた。分科会会場の「はなれ」は本館の向かいに戦後建築され、本館とともに数寄屋風の建築。

担当団体紹介　古町花街の会

全国随一の伝統的料亭街である古町花街において、歴史的町並みの保全、花街・芸妓文化の継承・広報活動等を行い、古町の、ひいては新潟市の観光振興や地方創生に繋げることを目標として活動する地元商店街、飲食店、花柳界、大学、市民等で構成される市民団体。

登壇者プロフィール

●コーディネーター
麻生 美希
同志社女子大学 准教授

●コメンテーター
川上 光彦
金沢職人大学校 理事長・学校長、NPO法人金澤町家研究会 理事長

●パネラー
神戸 啓
先斗町まちづくり協議会 副会長・事務局長、うさぎのアトリエぴょんぴょこぴょん 店主

久保 有朋
旧齋藤家別邸 学芸員、古町花街の会 事務局

あおい
古町芸妓、置屋「津乃」

パネラー等からの報告

1.古町花街の景観とまちづくりの経緯

久保 有朋 ▸▸▸

はじめに久保から、分科会テーマの背景として花街や芸妓の概況とその文化的価値、古町花街の歴史や魅力、景観保全の取り組み等が紹介された。古町花街は、先進的な芸妓育成システムが全国でいち早く導入され、現在も大小様々な規模の料亭が営業し、それらを中心に歴史的町並みが現在まで継承されている。近年は、古町花街の会による提灯による景観演出活動や国登録有形文化財の推進、景観計画特別区域指定への合意形成等の景観まちづくりが進行しており、防災力強化のための活動も地域の多主体連携により行われつつあることが報告された。

2.景観まちづくりから空間まちづくりへ

神戸 啓 ▸▸▸

神戸氏からは、先斗町で自身が主導してきた屋外広告物の整理、電柱地中化などの景観まちづくりの取組みを紹介しつつ、近年の歴史・景観まちづくりに関する法律のハード面への偏りが課題となっているとの指摘を頂いた。その上で、これからは「空間まちづくり」が大事であるとし、自身が運営している路地水族館の取組みも紹介頂いた。最後に、古町を輝かせるためには、人の営みに着目して町の歴史を見つめ直し、町や都市が持つ価値を地域で共有できる取り組みが必要とのアドバイスも頂いた。

3.花柳界から見たおもてなしの変化

あおい ▸▸▸

あおい氏からは、花街・芸妓を取り巻く環境やおもてなしの形が今と昔とで大きく変化してきたことを、自身の実体験や先輩芸妓から聞いた話を基に紹介頂いた。近年は古町の歴史や町並みへの興味からお座敷に来る客も増えたとし、最終的に人間が惹かれるのは歴史的・文化的なものなのではないかとの実感もお話された。こうした実感を踏まえ、今後の古町のあるべき景観について、写真映えする歴史的風情が感じられる町並み形成も大事だが、飲み屋街としての古町にはある種の雑多さも「味」として必要ではないかとの意見も頂いた。

4.金沢の三茶屋街と文化的景観

川上 光彦 ▸▸▸

川上氏からは、金沢市にある三地区の茶屋街を例に、国・県・市による景観保全制度の仕組みや特徴、各地区で市民と行政が協働で実施するまちづくり協定の内容を紹介頂いた。金沢では行政が景観まちづくりを主導しており、国のあらゆる制度を活用しつつ、各制度の穴を独自の条例で補完していることが紹介された。古町に対しては、重要文化的景観として位置づけられることで、市民的プライドの醸成や地元自治体・住民・民間グループによる連携が促進されることに加え、質・レベルを維持して若い世代に花街文化を浸透・継承させる効果も期待できるとの意見も頂いた。

ディスカッション

歴史的町並みや生業の継承、文化的景観を通じた地域の発展を中心テーマとしてディスカッションが進められた。町並みの継承には自治体による条例策定や国の制度の活用が不可欠だが、同時に制度的欠陥を市民で補填する取り組みも重要との意見が示された。また、観光は生業を支える間口拡大のきっかけとなり得るものであり、自治体と地域住民が協働し観光と生業のバランスを取っていくことの必要性も説かれた。最後に、自治体や市民が古町花街の歴史や文化をより深く理解することが、歴史や文化を活かしたまちづくりの基礎になるとの見解が共有された。

まとめ

今後の展望として、行政が歴史を活かしたまちづくりの指針を示し、ベースとなる環境整備として国の制度の活用や条例策定を進めることが必要不可欠との見解が示された。加えて、行政と市民が協働し、歴史的な価値の保全に加え新たな価値の創造にも取り組むことが、古町花街の文化継承と活性化に必要であることも確認された。

第4分科会
Breakout session

歴史的環境と芸術文化

2022.6.11（土）/ 新潟市美術館 講堂

●定員：80人
●参加費：590円（施設入場料）

趣旨と目的

近年、美術、音楽、舞踊、演劇などがそれ専用の場所であるホールや美術館でない場所で発表されることが増えてきた。工場跡、空き校舎、古い民家や町並みなどで制作、発表をあえて行う芸術家も多い。新潟市で2009-18年に開催された「水と土の芸術祭」でも多くの歴史的な建築や場所が会場となった。芸術表現が歴史的空間を魅力ある光で照らし、歴史的環境が芸術表現に独自の深さを奥行きをあたえるのはなぜなのか。歴史的建築と文化施設が集積し、共存する西大畑旭町で考える。

会場紹介　新潟市美術館 講堂

前川國男の最晩年の設計作品。新潟の気候風土に合わせたオリーブグリーンの外壁や砂丘地形を取り込み前面道路から展示室までをスロープでつなぐ導線は「建築は、その建つ場所に従え」という前川の設計思想を伝える。

担当団体紹介　西大畑旭町文化施設協議会（異人池の会）

近代に開発された西大畑旭町かいわいにある9つの文化施設が交流し、協力し合う会として2015年に誕生。地域のマップ作りや連携事業を行っている。異人池はこのかいわいにかつてあった砂丘湖の名前。

撮影：今井智己

登壇者プロフィール

●コーディネーター
大倉 宏
美術評論家、全国町並み保存連盟 理事

●コメンテーター
鈴木 伸治
横浜市立大学 教授

●パネラー
椎原 晶子
たいとう歴史都市研究会 理事長

吉原 悠博
美術家、吉原写真館主、新発田まち遺産の会 副実行委員長

堀川 久子
ダンサー、水と土の芸術祭2012 ディレクター

パネラー等からの報告

1. 時代に取り残された地域に残る「地としての文化」をアートが浮き彫りに

椎原 晶子 ▸▸▸

東京谷中は高度成長期には時代から取り残された一画だったが、1990年代に地域を発見する催しや銭湯が現代アートのギャラリーになるなどの動きが起こる。歴史ある建物を作品展示空間として保存・活用することも増え、サブリースなどで芸術表現の場に解放する動きも活発になってきた。歴史ある町の「地としての文化」をアートが浮き彫りにし、つなぎとめ、育てていくことに挑戦している。

2. 代々続く写真館に残された家族写真が、故郷を捨てかけた現代美術家を呼び戻した

吉原 悠博 ▸▸▸

東京、NYで現代美術家として活動したあと、膨大な過去の家族の写真に出会い、私を捨てるのかという声を聞き、写真館を継ぐことを決意した。もういちど住み始めた町で歴史を再発見し、新発田まち遺産の会の活動に参加。過去や現在の写真とまちをつなげる催しを企画してきた。今は写真館を当初の姿にもどし、あらたなつながりの場にしていこうとしている。

3. 既存の劇場空間にはない気配が、新潟の下町（しもまち）路地にあった。そこで「踊りたい」と思った。

堀川 久子 ▸▸▸

25年ぶりに帰郷したとき街で踊り新潟を知りたいと思い路地で踊りだした。路地は生活の延長に綿々と続いてきたものが空気になっている。その後長く使われなかった建物で踊ることを依頼されたときは、長い時を見つめてきた庭の木々に気持ちを動かされ、踊る気持ちが生まれた。自分の踊りは体を入れることで場所が生き物に感じられてくるような、そんな媒体でありたい。

ディスカッション

コメンテーターからは町を発見する機会を創り出した谷中の活動の持続のすばらしさ、6代続いた写真館を継ぐ決意をした吉原さんの活動に、それまでいろいろやってきたからこそ多くのサポートが集まっていること、堀川さんの踊りを見て、アーティストはわれわれが見過ごしているものを発見する天才だと感じたと感想があり、歴史的建造物が芸術表現の場に活用される横浜の黄金町や山手芸術祭の事例などが紹介された。

その後の話し合いで、3人のパネリストが地域に出会うまでの軌跡も語られた。町並み保存には、過去を否定しがちだった戦後の価値観を変える必要のあること、強制ではなく自然に古いもの場所の魅力に気づくことが重要で、アーティストの感性がそれを気づかせてくれることがあると話し合われた。

まとめ

歴史的環境は古い建造物が集積している場所だけではない。感覚で感じられる歴史（時間の深み）を、鋭敏なアーティストの表現が教えてくれることがある。パネリスト3人のそれぞれの地域での活動では多くの人がつながり、サポートをしている。歴史ある場所での芸術表現の新たなチャレンジを通じ、人がつながっていくことが重要であり、そのようなつながりこそが歴史的環境の継承を可能にし、支える力になる。

第5分科会
Breakout session

門前町の商店街に若者が係わる理由

2022.6.11（土）/ 上古町の百年長屋SAN

●定員：30人

趣旨と目的

新潟市総鎮守である白山神社の門前町として栄え、又町屋も多く残る上古町商店街。上古町の個性でもある門前町という切り口とまちの変遷に影響を及ぼした若者の役割といった点から歴史ある店舗側から視る商店街、新たな出店者又は外から視える商店街、様々な視点を持ち寄り門前町など歴史ある商店街の変遷と若者の関係などを考える。

会場紹介　上古町の百年長屋SAN

上古町商店街で親しまれている築百年の町屋を活用した建物、その場所を新たにまちの拠点機能を持つ小さな複合施設として2021年冬オープン。2階の多目的スペースを会場とした。

担当団体紹介　上古町商店街

白山神社や愛宕神社の門前町として時代を歩み、戦後の大火や地震を乗り越えてきたが、昭和以降の郊外大型商業施設進出や商店主の高齢化などの背景による衰退の危機が契機となり設立。門前市やまち歩きのイベント企画など、様々な取り組みを行い、変わりゆくもの・変わらずにあるものを受け入れ活動を続ける。

登壇者プロフィール

●コーディネーター
浅野 聡
三重大学教授、國學院大学教授、全国町並み保存連盟 理事

●コメンテーター
中村 泰典
NPO法人倉敷町家トラスト代表理事、全国町並み保存連盟 常任理事

●パネラー
迫 一成
hickory03travelerrs代表、上古町商店街理事長

金澤 李花子
編集者、上古町の百年長屋SAN副館長

中村 出
建築士、（株）ヤマムラ、山形新庄と東京二拠点で歴史的建造物の利活用に取り組む

パネラー等からの報告

1.伊勢神宮門前町も商業地として衰退した理由は歴史的景観の損失が原因か

浅野 聡 ▸▸▸

三重大学での研究で係わる地元伊勢神宮でさえも昭和以降門前町としての歴史的景観の喪失により観光客激減、商業地としての衰退がみられた。歴史を持つ商店街の今までとこれからを、地元神社との関わりや現存する多くの町屋の行方、若者によるまちづくりへの関わりをキーワードに考える。

2.若者が楽しむ町、好きと言える町、それが良い町

迫 一成 ▸▸▸

商店街をカミフルマチと呼び始めた2004年頃は、観光地でも無く、町歩きの地でもなかったが、人を迎えるという意味でマップを作り商店街のロゴマークを作り、若者に向けたイベントを自発的に行ってきた。自然と若者が楽しいことをやっているというイメージが広がり、集客が増え出店希望者も増えてきた。自分が思う良いまちとは、そこにいる人達が楽しそうで、ここが好きと言えるまち、と考えている。

3.変わってしまった、学生時代に親しみを持っていた町をなんとかしたい

金澤 李花子 ▸▸▸

高校時代親しみをもって接していた街カミフルマチ。大学を出て編集等の仕事を続けるが、コロナ禍の中、東京と新潟の二拠点生活に。戻った新潟は高校時代感じた魅力とは違い、自ら何かをしたいという思いを発信した。それが迫さんの目に触れ、この施設を一緒にやろうと誘われ関わる事に。又訪れたい、住んでみたい、お店を待ちたい、というイメージが持てるような拠点となる事を目指し活動を始める。

4.古い建物を保存活用することで地元の歴史まちづくりに関わる

中村 出 ▸▸▸

大学で歴史的建造物保存活用を学び、古い建物を改修し利活用する活動及び事業を始める。自分も通っていた東京都台東区の銭湯が壊されると聞き自らの建築オフィスとカフェを併用した複合施設に保存利活用する。その後幾つかの事例を経験。解体の危機にある地元の蔵が祖父と関連があること知り、店舗に改修することで保存利活用が叶う。現在地元新庄市で民間企業、地域の一人としてまちの魅力を活かすか活動を続ける。

5.伝建地区とは違う、歴史的景観や古い町並み・商店が残る町の持つ可能性

中村 泰典 ▸▸▸

伝建地区と古い建物が残り続ける地域とは未来が違うように思う。伝建地区は保存地区なので将来も大きく変わらず、又うまく活きない事が時にある。しかしこういった歴史有る建物が生き続け新しい物も加わる街は新たなる未来がある。古い建物は壊してはならない。古い建物は磨き続けることで新たな未来が生まれる。このまちを活かしている人々は肩に力が入ってないのがうらやましく感じた。

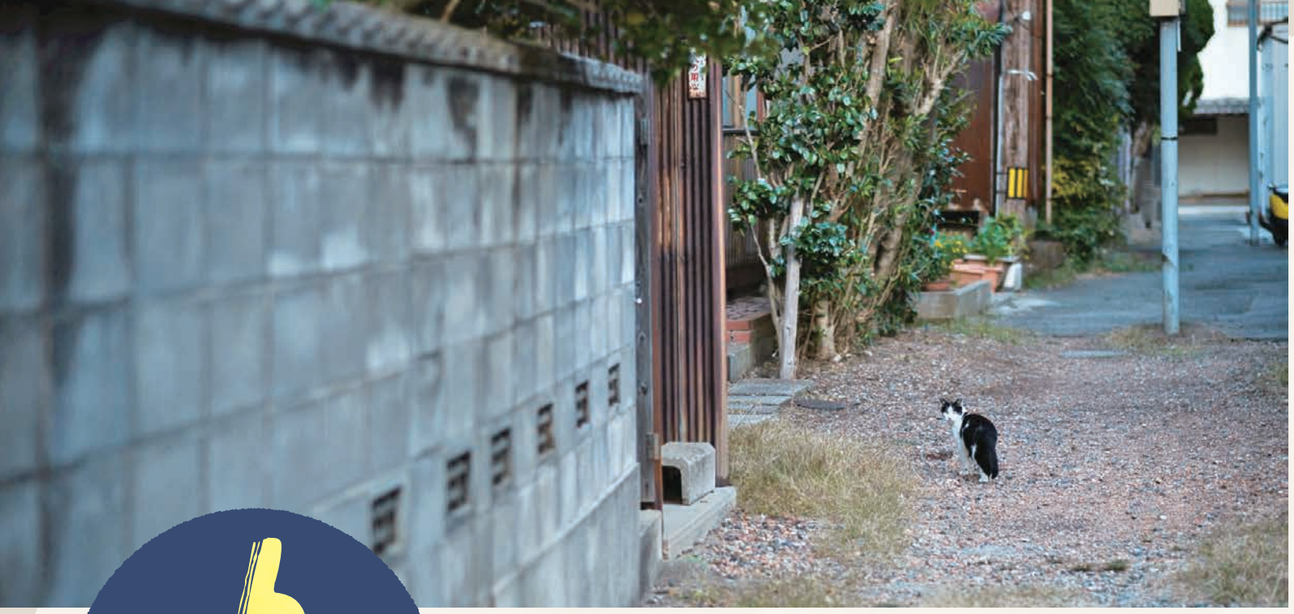
ディスカッション

共有できるテーマからか、会場からの質問が多く、質問にパネラーが答える形でのディスカッションとなった。

古い建物を改修してビジネスを始める際どの程度計画を立てているのか、という質問に迫さんは、「サブリースで事業計画を立て、他のテナントからテナント料をもらう事である程度安定できる。又補助金や助成金は使えるものは使う。改修にはロゴマーク等グラフィック的な処理で工事費を押さえる。」と回答。中村出さんは、「古い建物の魅力を活かしなるべく手を掛けずそのままとし工事費を抑え、構造・インフラ設備で改修必要な部分にお金掛けることは安全性を担保するので必要。」との回答を頂く。行政との関わりはどうか、との質問に迫さんは「補助金助成金の関係で、良い関係を築いている。」金澤さんは「先日市長、市の関係者から呼ばれ話をした。20代の女性でまちづくり、起業に係わる者の話は興味があったのだろうが、同世代の行政担当者から、話が響いたと聞き良かった。」と回答。その他の質問回答に対し中村泰典さんは「この町には旦那衆といった影響力を持つ商店主が居なかったことが上手く行った理由だろう。」とコメント。その他質疑応答が活発の中閉会の時間を迎えた。

まとめ

歴史有るまちには歴史ある旦那衆が居り次世代を担う人達と良い関係を築くことが良いまちづくりには欠かせない。古い建物や町並み、商店街を維持し未来へ繋げるには次世代の担い手が必要不可欠で、その次世代の担い手とどの様に巡り会い又どの様に接すべきなのか、参加者の多くが興味を抱き回答を得た分科会だった。



第6分科会
Breakout session

路地のある町をどう安全に、魅力的にしていけるか

2022.6.11（土）/流作場鎮守 三社神社　●定員：50人

趣旨と目的

万代島にほど近い信濃川右岸の路地がめぐる天明町界隈には、昭和の風情が各所に残る。インフラ整備が遅れ、海抜ゼロメートル地帯で災害リスクが懸念されるものの、路地では温かなコミュニティ景観に遭遇する。脱炭素社会が叫ばれる中、空家・空地などを含む地域の未利用資源の再生利活用は待ったなしの課題であり、路地の町の防災・減災・コミュニティづくり、空き家利活用、地域再生の担い手育成などを考える。

会場紹介　流作場鎮守 三社神社

信濃川の中州に点在した、小島が寄り付く一帯を開拓するにあたり1747（延享四）年に安倍玄的が祠を建てたことに由来。洪水やツツガ虫による被害も頻繁だった地の安寧を願うもので明治以降、三社神社と改称された。

担当団体紹介　株式会社 T-Base-Life

「地域の課題を魅力に変換させる」をテーマに、地域における空地・空家などの再生・利活用提案に取り組んでいる。

登壇者プロフィール

●コーディネーター
渡辺 斉
新潟県建築士会 顧問

●コメンテーター
北島 力
NPO法人まちづくりネット八女理事長・全国町並み保存連盟 副理事長

●パネラー
後藤 大輝
すみだ向島EXPO代表

関谷 浩史
新潟県立大学 准教授

天本 浩未
株式会社T-Base-Life 代表取締役社長

パネラー等からの報告

1.受け継がれた空間での持続するまちづくり 空き家の再生活用活動と移住定住促進の現場から

北島 力 ▸▸▸

福岡県八女市において町並み担当部署に通算16年間籍を置きながら、住民と共にまちづくり活動を展開してこられた北島氏より、これまでの活動成果報告と課題提起を頂いた。地域の歴史文化であり、暮らしの営みから出来たコミュニティーづくりと、その実際の建物維持活用を現場で担う建築技能者実務者の育成を車の両輪に見立て、その時々の取り組みが円滑に進むように行政がバックアップする。まさに行政とまちづくりコーディネーター二つの顔を持つ北島氏ならではの基調報告となった。

2.表現する安住の共同体2008-2022

後藤 大輝 ▸▸▸

当初映画を作りたくて上京した後藤氏が、谷中から京島に引っ越して14年。映像表現からまちなかアートプロジェクトにシフトし、2000年に小さな長屋を借りて向島博覧会を開いたことが転機となったという。

一日店長スタイルのシェアカフェを皮切りに、一時的に借りていた建物をサブリースする等、次から次へと使われなくなった古い建物に命を吹き込む仕事が広がりを見せ、今や預かっている建物は40棟に及ぶという。

「放っておけば古い建物は壊されコインパークになってしまう！」そんな強い危機感が、次々と取り組みのアイディアを生み出し、今後は文化財団を立ち上げて次世代にまちを受け継ぐ仕組みをと、挑戦は途切れることはない。

3.天明町の「これまで」と「これから」

関谷 浩史 ▸▸▸

大河信濃川右岸にあって、ときに災害リスクを負いつつもその地を利用し発展してきた新潟町と天明町の位置づけについて、ハザードマップを見ながら解説。都市再生緊急整備地域のリスク対策を取りながら、地域の空き家を含めて商業的振興をはかるために取り組んだ5年間の軌跡を振り返った。またAIとアプリを駆使しての地域特性分析、なかでも不動産としての流通可能な空き家を特定し、さらに統計学的手法により地域傾向を分析し天明町を大胆に診断した。空き家は地域に必要なものを埋め込むことのできる余白であると言い切る関谷氏。経済合理性だけでは測ることのできない天明町の可能性を感じることができた。

4.私を育ててくれたマチ天明町

天本 浩未 ▸▸▸

前職を辞した2016年以来、天明町の住民となった当初、マルシェやクリエイティブ・イベントを開いた試行錯誤の時代。そして2018年空き家対策の担い手強化連携モデル事業採択を皮切りに、動き始めた今各種委託・自主事業とこれからについて語ってくれた。

飾りのない爽やかな話しぶりに、まさに地域の守り人にふさわしいお人柄をうかがうことができた。

ディスカッション

「石の上にも10年20年」という天本氏の発言を受けて、現在のまちづくりは、進化スピードが、衰退スピードに追い付いていないという厳しい現状認識からスタートした。

そこで「まちづくりコーディネーターはブレない哲学を持って自ら進化するしかない」と北島氏。また後藤氏は、「映像作品づくりを通じてまちの人々と知り合えたことで、モノの見方、嗅ぎ取り方を研ぎ澄ますことになった」と。また新たな物件の扱いについても、その価値をまちに問いつつ、殊勝に語るのではなく、アートのセンスをさりげなく織り込んで提案することが大切であると話された。関谷氏は研究者としての立ち位置で「カーネル密度解析」や「フォトランゲージ」といった分析手法などを用いながら、外から見える魅力が逆に地域の課題であるという矛盾した現状を捉え、その課題の理解処理は、いかにそれをポジティブに見るかにかかっていると強調した。地域と日頃より深い関わりを持って事業活動をしている天本氏は、地域のことをよく知る住民さんを前に説くのではなく、逆に身近に寄り添う気持ちを忘れずに行きたいと語った。

まとめ

町屋、長屋、狭隘路地における景観まちづくりについて3地区の事例発表をまとめるかたちで、渡辺氏は、各地事情・環境が異なる中で様々な障害を乗り越えて資源循環型社会をこれからどう作るかという課題解決に注力すべきと総括。

その中で木密市街地、路地のある町づくりの取り組みを続ければ、きっと多くの課題は突破口を見出すことができると結び、3時間に近いセッションを終えた。

交流会

Reception

●参加費：6,000円

川越大会、奈良大会に続き、新潟市大会も分科会からスタートしたので、交流会ではじめて参加者が顔をあわせた。幸いにも感染者が少なかったとはいえ、従来のような立食パーティーはできないという判断で、コロナ禍、宴会を続けてきたイタリア軒の力を借りて、スクール形式で着席黙食弁当、おみやげに越乃寒梅、今代司、鶴の友、峰乃白梅といった新潟市内の銘酒をつけるという方法を採った。久保有朋さんと映画「しきさい～Seasons Colours」（映文連アワード2021 優秀企画賞）の梨本諦鳴さんのトークの後、映画を上映。この映画は、新潟市の美しい町並みを舞台に古町芸妓と女子高生の触れ合いを描いたものである。続いて、大倉実行委員長から翌日の決議に向けた「萬代橋の景観について報告と決議アピール」の後、食事をとった。

ブロック会議

Block meeting

交流会の食事の後はマスクをして、机上のアクリル板をはずし机を並べ替えて、北海道・東北、関東、北陸甲信越、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の7つのブロックに分かれてブロック会議を開催した。今回は交流会に参加した新潟市のみなさんがそのままブロック会議に参加し、北陸甲信越ブロックだけでなく分科会で親しくなった方のブロックに参加するなど分散し、自己紹介から交流を深めることができた。

1つの会場で同時に開始したため話が聞きにくいなどの制約はあったものの、昨年はできなかったブロック会議を開催することができた。

全体会

Plenary meeting

コロナ禍、桜川市真壁大会はオンライン、昨年の奈良大会はハイブリッドであったが、今回は久しぶりに完全にリアルでの会場にお迎えしての開催であった。

新潟市の町並みと歴史まちづくり

新潟大学・新潟まち遺産の会・古町花街の会　岡崎篤行

1.はじめに

新潟市の中心部は、長岡藩の外港である新潟町と、新発田藩の外港である沼垂（ぬったり）とからなり、萬代橋（重要文化財、以下重文）で繋がっています。現在の市街地は、近世からの古町と、戦後に開発された万代シティ、同じく新潟駅周辺の3箇所が中核です。萬代橋の脇には新潟西港に面する国際会議場「朱鷺メッセ」があります。槇文彦氏の設計で、最上階の展望台からは美しい夜景を楽しむことができます。

2.新潟湊の歴史

本州日本海側最大の越後平野は、全国最大級の新潟砂丘や、干拓で減ってしまった潟、農村地帯から成ります。水田地帯には自然堤防上に農村集落が点在します。以前は信濃川、阿賀野川という2つの大河が交わって日本海に流入していた所に新潟はあります。新潟の地名は中世から文書に現れます。近世初期には、長岡藩により整備されます。当初は現在より少し砂丘側の寄居町付近にあったとされますが詳細は不明です。信濃川の土砂堆積等により、1655年に現在地（中央区古町地区周辺）に移転しました。鶴岡藩の酒田、弘前藩の青森などと共に、城下町の外港として近世に整備された町で、港町のひとつの類型を成します。

近世からの港である新潟西港は今でも河口港です。江戸を始め、近世には河口港は珍しくありませんでしたが、現代港湾では最大級と思われます。当代の北前船ともいえる新日本海フェリーや第九管区海上保安本部の巡視船などが停泊しています。佐渡行きのフェリーも信濃川の中で発着します。船尾を固定して180度回転し、出航します。信濃川の川幅が広いからこそ可能です。もうひとつ、西港が河口港のまま継続できる理由は、堀込式の新潟東港（新潟市北区・聖籠町）が建設され、コンテナ埠頭等を収容したことでしょう。

新潟は近世には北前船交易で栄え、花形産業である廻船問屋が軒を並べました。碁盤目状の街区には、運河としての堀割が町全体に張り巡らされていました。県内町場のメインストリートは、通常「本町通り」です。大都市新潟は「古町通り」に加え、新町としての「本町通り」が

あります。また「古町通り」は西堀と東堀に挟まれています。同じ碁盤目状でも京都とは異なり、南北の「通り」が主であり、東西の「小路」は従という、位置づけが明確です。

信濃川（大川）の上流が「カミ」、下流が「シモ」、中央が柾谷小路です。現在では柾谷小路が幹線道路となり、萬代橋を経て新潟駅に至る「都心軸」の一部を成しています。近世から都市軸が90度回転したことになります。柾谷小路が西堀に突き当たった所に奉行所があり、その後初代県庁になりました。市区改正で柾谷小路が延伸され、奉行所敷地は柾谷小路を挟んで南側の警察署と北側の市役所に分割されます。現在、前者は三越デパート跡に、後者は中央区役所や本大会会場である市民プラザが入るNEXT21に変わっています。NEXT21の展望台からは、20棟以上の本堂が南北一直線に並ぶ寺町の景観を望むことができます。

伊藤毅先生は、新潟の町割では、短冊状の町屋敷地が整然と並ぶ近世的な「町」空間が卓越し、武家屋敷や寺院も含めて、中世的な「境内」空間がほぼないと述べています。西村幸夫先生は1655年という、近世初頭の都市建設が一巡した時期に新潟が計画されたことを指摘しています。宮本雅明先生は新潟を「近世都市のひとつの到達点」と位置付けています。

堀には柳の並木が植えられていたことから、新潟を「柳都（りゅうと）」とも呼びます。国体が開催された1964年までに堀は全て埋められましたが、道路体系は残り、柳の街路樹が植えられています。河川港、低湿地、砂丘などの特徴は、オランダの首都で世界遺産のアムステルダムと共通しています。主に近世に整備された町人の町であること、運河を持つことも同じです。幕末には天領となり開港5都市に選ばれました。港町のシンボルである日和山が現在も残り、頂上には社があります。

3.文化財建造物と町屋

新潟は京都、金沢と並んで比較的大規模の都市としては、珍しく壊滅的な戦災を受けていません。そのため、市街地中心部にも多数の歴史的建造物が現存します。新潟総鎮守の白山神社拝殿は18世紀前半に建て替えられたものとされています。白山神社境内に1873年に開設された白山公園は国の名勝です。近隣にある愛宕神社の本殿・拝殿も18世紀前半の建築として市指定文化財となっています。擬洋風建築として有名な旧新潟税関庁舎（1869）は、唯一現存する開港当時の税関庁舎として、重文に指定されています。

重文・旧新潟税関庁舎

現存しませんが、東京築地の外国人居留地に建てられた日本初の洋風ホテル「築地ホテル館」によく似ています。下町（しもまち）の「みなとぴあ」には、旧税関庁舎の他、保存運動を経て移築された旧第四銀行住吉町支店や新潟市歴史博物館があります。同じく重文指定を受けている新潟県議会旧議事堂（1883）は、府県会開設期の議事堂として唯一、当初の敷地に現存するものです。

重文・新潟県議会旧議事堂（新潟県政記念館）

萬代橋（1929）は、現役の国道橋梁として全国に2つしかない重文です。本大会でお配りしたコンベンションバッグのデザインにも使われています。

新潟大学が2005年頃に行った調査では、旧新潟町の範囲に長屋も含めて約1,000棟の町屋（町家）が残存すると推定されました。東堀通り5番町付近など、中心部の随所に町屋が残っていますが、ファサードが改造されていることが多いため、目立ちません。下町の湊町通りなどには、雁木も比較的よく残っています。プログラム表紙の版画にも描かれているように、新潟の町屋は表が平入、奥が全面道路から見て長い妻入りになっているものが多くあります。このような町屋の地元での名称は見つかりませんでした。棟が直交していることから、研究室や新潟まち遺産の会では、便宜上「丁字型町屋」と呼んでいます。表からは一見、平入りの町並みに見えますが、上空から見ると本質的には妻入りであることがわかります。

北関東などにも類似のものはありますが、通り土間が貫通しており、全体で一つの構造物であるところが特徴です。京都や村上とは異なり、ミセの次に座敷が配置されます。秋田などと同じです。新潟は明治初期まで妻入りだったのが、大火等の後、行政の指導で表が平入りになっていったと考えられます。

表通りと小路の関係は町屋にも現れています。小路から見ると平入りになりますが、そうではなく、通りから見て妻入りという原理で建てられています。下町の妻入り町屋には、裏が長屋になっていて、全体で10軒連続しているものもあります。裏の長屋には、隣の町屋との間にある路地からアクセスします。裏が長屋の丁字型町屋もよく見かけます。これも新潟の特徴で、都会として高度利用が進んだことを示しています。

細部の意匠としてよく見られるものには、せがい造りの軒裏や、高窓付き雨戸などがあります。当然ながら雨戸には戸袋が付きます。二階が張り出しているものも多くなっています。下町にある旧小澤家住宅（市指定）は、花形産業だった廻船問屋として最後の遺構で、新潟町屋の特徴をよく残しています。

また市内には15件の酒蔵が営業しています。沼垂（中央区）の今代司酒造、木山（西区）の高野酒造、竹野町（西蒲区）の越後鶴亀など、歴史的建造物を有する酒蔵も少なくありません。

今代司酒造（沼垂）

農村部には豪農の館も点在します。大庄屋笹川邸（南区旧味方村）は重文です。中原邸（西区赤塚）は登録文化財で、主屋は江戸後期の建築です。北方文化博物館として公開されている伊藤家（江南区沢海）も登録文化財です。

重文・旧笹川家住宅（南区味方）

4.市内の歴史的町並み

中心部には5ヶ所の国指定文化財、4ヶ所の歴史的界隈があります。白山神社門前の上古町（かみふるまち）には、アーケードの商店街に町屋が並びます。第5分科会場の建物は、町屋再生・活用の草分け的存在で、近年再々整備されました。ゲストハウスなど新たな用途の活用例が多く、若者で賑わっています。

近世湊町の中央に位置する古町花街（ふるまちかがい）は第3分科会場となっており、全国随一の伝統的料亭街です。現代の歓楽街でもあります。表通りは商店街の古町通りです。その背割り線に整備された東西の新道沿いに花街が形成されています。中央にホテルイタリア軒に続く坂内小路があります。さらに隣棟間の隙間を利用した幅員2mにも満たない路地が多数あります。私有の敷地を出し合って通路に利用するもので、方言で「ヘヤナカサ」あるいは「ダシアイ」とも呼ばれます。鍋茶屋は、繁華街にあって威容を誇る老舗高級料亭（国登録文化財）です。東新道に面しています。鍋茶屋の木造3階部分には全国最大級200畳の大広間があります。

全国有数の料亭「鍋茶屋」（古町）

明治以降に、港湾地区の市街地が拡大された下町（しもまち）では、旧小澤家住宅（第2分科会場）周辺が景観計画区域の特別区域に指定されています。廻船問屋だった旧小澤家住宅は

洋風建築のカトリック新潟教会（西大畑）

市指定文化財となっており、「北前船の時代館」として公開されています。廻船問屋と並んで港町を象徴する網元屋敷も、飲食店「魚や片桐寅吉」（国登録文化財）として活用されています。本町通14番町の新潟遊廓跡にも、往時の建物が残っています。

明治以降に砂丘を開発したお屋敷町の西大畑（第4分科会場）・旭町地区には、洋風建築も多く残っています。双塔のカトリック新潟教会（1927）は司教座（カテドラル）です。洋館付き和風住宅の旧市長公舎（1922）は「安吾風の館」として公開されています。和洋併置の洋館、新津記念館（1938）は石油で財をなした商人の迎賓館で国登録文化財です。旧新潟師範学校記念館（1929）も登録文化財で、新潟大学

洋館付き和風住宅の旧新潟市長公舎「安吾 風の館」（西大畑）

全国有数の料亭「行形亭」（西大畑）

旭町学術資料展示館として活用されています。旧齋藤家別邸は廻船問屋の夏の別荘として建てられた近代和風建築で、砂丘地形を生かした庭園も含めて国指定の名勝です。一帯は景観計画区域の特別区域に指定されています。旧齋藤家別邸の隣は、元禄からの高級料亭「行形亭（いきなりや）」（国登録文化財）です。2,000坪の広大な敷地に離れが点在しています。鍋茶屋とともに全国有数の料亭です。大倉実行委員長が館長を務める砂丘館は、全国に2カ所しか残っていない旧日本銀行支店長役宅で、洋風内装の応接間と中廊下を持つ和洋折衷建築です。

旧日本銀行新潟支店長役宅「砂丘館」（西大畑）

第6分科会のまちあるき対象地となっている沼垂は、新発田藩の外港で古代渟足柵（ぬたりのさく）の所在地ともいわれています。沼垂町は新潟町とともに近代新潟の中核をなし、醸造の町でもあります。今代司酒造の他に、味噌製造場を再生・活用した峰村醸造があります。茅葺の母屋は道路拡幅により取り壊されましたが、2棟の土蔵などが残されています。

市内の旧新潟町・沼垂町以外の地域の多くは在郷町です。現役の商店街であり、町屋が多く残っています。亀田（江南区）、小須戸（秋葉区）、白根（南区）、内野（西区）、赤塚（西区）、曽根（西蒲区）、巻（西蒲区）、葛塚（北区）などがあります。新津（秋葉区）には、石油産業遺産（国史跡）が残っています。石油王と言われた中野家の邸宅は、中野邸記念館として秋季限定で公開されています。農村集落にも歴史的環境が残っています。亀田縞の生産地でもある袋津（江南区）、半農半漁の越前浜（西蒲区）、北国街道沿いの福井（西蒲区）などがあります。福井には茅葺民家の旧庄屋佐藤家が残っています。

在郷町白根の町並み（南区）

5.建築保存から歴史まちづくりへ

新潟まち遺産の会は2004年、歴史的建造物やそれにつながる有形無形の事物事象を「まち遺産」ととらえ、その価値を市民に伝える活動をおこなう団体として誕生しました。前段階には1990年代～2000年代初期の新潟市公会堂や第四銀行住吉町支店の保存を考える動きがありました。旧第四銀行住吉町支店の現地保存は実現しませんでしたが、RC造の躯体は造り直し、仕上げ材等は移設されました。登録文化財になっています。道路拡幅で取り壊される町屋の保存運動では、募金で解体し、部材を保管しましたが、再建には至りませんでした。2005年には売却が検討されていた旧新潟県副知事公舎（1921）の保存を複数団体で要望し、洋館付き和風住宅であるこの建築の公募貸付による活用が実現しました。旧齋藤家別邸については、2008年に広くさまざまな市民、団体と共同で保存運動を行いました。署名活動、庭園公開、市議会への請願などが実をむすび、別邸は公有化され、国名勝に指定されました。会として初参加の鹿島・嬉野大会（2014）で報告したモダニズム建築「旧會津八一記念館」は現在民営のNSG美術館となっています。会では、新潟町屋を活用した店舗や、西大畑周辺の歴史的建造物、古町の花街建築などを紹介するマップを発行してきました。全国的にも貴重な古町花街の建築保全には特に力を注いできました。料亭有明（現在閉店）では、数年間に渡り、毎年一般客向けのお座敷イベントを開催しました。花街建築の実測調査や修景提案も行いました。

洋館付き和風住宅の旧新潟県副知事公舎（西大畑）

2019年には、合併により広域化した市内各地区のまちづくり団体とも連携し、「歴史まちづくり法」を活用した市全域での本格的な歴史まちづくりを促すため、「新潟歴史まちづくり推進協議会」を設立しました。岩室温泉（西蒲区）は北国街道沿いにあり、新潟の奥座敷と呼ばれます。高島屋は国の登録文化財です。近くには、重文・種月寺（西蒲区石瀬）もあります。

重文・種月寺（西蒲区石瀬）

これより先の2006年には当会も参加して、新潟県まちなみネットワークが結成されました。この団体が、毎年、新潟県と協力して開催しているのが、本日午後に開催される「にいがた美しいまちなみフォーラム」です。

〈 参考文献 〉

高橋康夫 他 編(1993)「図説日本都市史」東京大学出版会

宮本雅明 著(2005)「都市空間の近世史研究」中央公論美術出版

岡本哲志 著(2010)「港町のかたち その形成と変容」/ 法政大学出版局

藤村誠 著(2014)「新装版 新潟の花街 古町芸妓物語」/ 新潟日報事業社

諫山正 他 監修(2018)「みなとまち新潟の社会史」新潟日報事業社

西村幸夫 著(2018)「県都物語 47都心空間の近代をあるく」/ 有斐閣

分科会報告

Report of Breakout sessions

分科会報告は、これまで学生ボランティアのみなさんにお願いしていたが、コロナ禍、学生さんの参加が難しくなり、昨年から各分科会コーディネーターにお願いしている。分科会のスタッフが撮影した写真を背景に、各分科会の情報を共有した。

各地からの報告

Reports from various places

「各地からの報告」は、第1回全国町並みゼミから続くプログラムである。今回は6つの団体から報告があった。

前回の全国町並みゼミ奈良大会を終えた公益社団法人「奈良まちづくりセンター」の藤野正文さんからは、開催のお礼と開催を機に市内の団体や学生の横の連携ができたこと、関連イベント「奈良町見知ル」が今年も開催されること等が報告された。昨年入会したNPO法人「小川町町創り文化プロジェクト」の平山雅士さんからは、入会の挨拶と活動紹介があった。「有松まちづくりの会」の藤枝静次さんからは、重伝建選定に続く日本遺産認定を受けて名古屋市と連携している取組や延期していた東海ブロック町並みゼミの開催等が発表された。NPO法人「倉敷町家トラスト」の成清仁士さんからは、全国町並み保存連盟でもオンライン講演会などを開催しているユネスコのHUL（Historic Urban Landscape）について、倉敷の歴史的市街地をモデルにアプローチを試みることが報告された。「八日市護国地区町並保存会」の芳我明彦さんからは、重伝建選定40周年記念行事とあわせて、初の中国・四国ブロック町並みゼミを内子町で開催するとして、歓迎の挨拶があった。来年の全国町並みゼミ開催地に立候補している小樽市からは、市役所の南部真人さんと峰尾光人さんが町並みの魅力を紹介した。

古町芸妓の舞

Dance of furumachi geisha

新潟市には、江戸時代にルーツをもち、新潟の伝統文化を今に伝える「古町花街」がある。現役の料亭を中心とした歴史的町並みが今に残る、伝統的料亭街として全国随一の花街でもあり、この度の新潟市大会では第3分科会の開催地にもなった。

この古町花街には、日本舞踊「市山流」や唄・三味線などの伝統技芸を修め、料亭などのお座敷で伝統的なおもてなしを行う「古町芸妓」がいる。昭和初期には300人以上いたとされ、現在も20余名の古町芸妓が活動している。この内、およそ半数に当たる10名の若手芸妓が柳都振興株式会社に社員として所属し、彼女らは「柳都さん」と呼ばれている。柳都振興株式会社とは、1987年に地元の企業約80社が出資し設立した、全国初と言われる芸妓の養成・派遣を行う株式会社組織の置屋である。

今回の「古町芸妓の舞」では8名の柳都さんに出演頂いた。舞の前座として、古町花街の会事務局（実行委員）の久保から古町花街と古町芸妓について簡単な紹介をしたが、その後曲に入る前に出演芸妓の中で一番のベテランである和香さんから来場者への挨拶と、各曲目の紹介もして頂いた。曲目としては、一曲目に西條八十作詞、中山晋平作曲の「四季の新潟」、二曲目に新潟県の代表的な民謡である「新潟おけさ」と「佐渡おけさ」を合せた「おけさづくし」、三曲目に北原白秋作詞、町田嘉章作曲の「新潟小唄」が披露された。その優美な三味線の演奏と唄、そして華やかな舞に、曲が終わると会場には万雷の拍手が鳴り響いた。

峯山冨美賞

Mineyama fumi award

峯山冨美賞は、「小樽運河を守る会会長」として粘り強く保存運動に取り組んだ峯山冨美さんの思いを後世に残したい、と峯山さん没後、ある篤志家から全国町並み保存連盟にお申し出があり、これまで5人の方と1団体に贈った。今年で7回目を迎える。

上越高田で生まれ育った関由有子さんは、建築家として海外や京都で修業を積んだ後、故郷に戻った。城下町であり、陸軍が置かれたことから近代化にいちはやく取り組んだ高田には、建物だけでなくさまざまな伝統文化が残されている。しかし、豪雪地であるがゆえ、空き家が増え、日本一の雁木がなくなっていく姿を目の当たりにした関さんは、仲間と一緒に「あわゆき組」をつくり、伝統文化の継承を始めた。また、建築家として「高田小町」の設計や映画館「高田世界館」の保存活用などに取り組み、さらに雁木の新築や空き家の活用などの仕組みづくりを進め、全国に発信している。また、村上の吉川真嗣さん、新潟市の大倉宏さんに続く3代目の「新潟県まちなみネットワーク」代表でもある。贈呈式では多くの写真で活動をご紹介頂き、雁木や町家の魅力を次の世代に伝えたいと創刊したマガジン『つぎつぎ』が配布された。

閉会式

Closing ceremony

大会宣言を読み上げたのは、和服姿の久保有朋さん。「萬代橋周辺の景観についての決議」も続いて久保さんがアピール。前夜のブロック会議の関東ブロックで提案された緊急アピール「都市部の歴史ある町や建物保全を支援する決議」は椎原晶子さんと後藤大輝さんが登壇、いずれも承認された。金親顕男・大会副実行委員長のお礼の言葉の後、来年の開催地を代表して、迫俊哉・小樽市長に連盟旗を引き継ぎ、迫市長から歓迎のごあいさつがあった。全国町並み保存連盟からは、北島力副理事長が感染症対策のため代表で壇上に上がった大倉会長他式場の大会実行委員会のみなさんに謝辞を申し上げ、2日間の大会が無事、終了した。

ランチについて ※閉会後、全体会および午後のフォーラム会場と同じ建物（NEXT21）の16階にあり、市内を展望できるレストラン「禅（ZEN）」に事前予約制での昼食会場を設けた。

〈 新潟県・新潟県まちなみネットワーク主催 〉

にいがた美しいまちなみフォーラム2022 ＋ 第16回 新潟県まちなみネットワーク新潟市大会

［日時］6月12日（日）14:00-17:15 ［会場］新潟市民プラザ

基調講演

「港町・新潟の価値と可能性 ～川と海の結節点に描かれた都市空間の履歴～」

岡本哲志 氏（岡本哲志都市建築研究所 代表）

パネルディスカッション

「歴史を活かしたまちづくり」

西村幸夫氏（國學院大學教授 / 全国町並み保存連盟常任理事）、岡本哲志氏（基調講演講師）、駒木定正氏（北海道職業能力開発大学校特別顧問）、中野奈美子氏（風待ちの会世話人代表）、野内隆裕氏（路地連新潟代表 / 日和山五合目館長）

江戸時代初期に中洲だった土地へ移転した新潟は、その後も続く土砂の堆積をポジティブにとらえ、市中に堀をめぐらせる江戸型の内港都市を作り上げた。そして近代になると、新たに山の手と下町を周縁に作るが、間に残された近世の町では堀の浄化を条例や機械排水等で維持しつづける。近世を生かし、取り込んだ近代の都市計画を構想した新潟の先人の努力を評価する港町研究家・岡本哲志氏のお話は新鮮だった。堀の復活はノスタルジアではなく、将来に向けての価値の共有と可能性を考えるリアリティが必要という助言も頂いた。

続くパネルディスカッションでは港町新潟の歴史と魅力を発信し続ける野内さん、佐渡であらたに重伝建指定を目指す小木の中野さん、来年の町並みゼミ開催地である小樽の駒木さんらのお話から「港町」の過去と将来を考える有意義な時間となった。

オプショナルツアー

●6月13日（月）/ 参加費：8,500円

Optional tour

新潟市は2005年に近隣13市町村と合併し、8つの区を擁する政令市になった。
ツアーはこの新市域の在郷町や集落、また地域を代表する2つの豪農の館を一日で巡る企画。
大会3日目に行われたツアーには31名が参加。天候に恵まれた中、貸し切りバス1台でホテルイタリア軒を出発し、
迷路の町亀田袋津（江南区）の町歩きのあと、北方文化博物館（伊藤家住宅・江南区）、
在郷町小須戸（秋葉区）と白根（南区）の町並み、岩室温泉郷・宝山酒造（西蒲区）の酒蔵、
庄屋中原家（西区）をめぐった。

Start!

新潟きっての老舗ホテル
イタリア軒を出発

Point1

スタートは新潟砂丘でも最も古いとされる
4500年前の砂丘列上の袋津から

Point2

細い路地の続く袋津のまちでは
再生土蔵、復活した伝統の
亀田縞等を見学

Point3

戦後初の私立博物館でもある
北方文化博物館の間口24mに及ぶ
土蔵門は壮観である

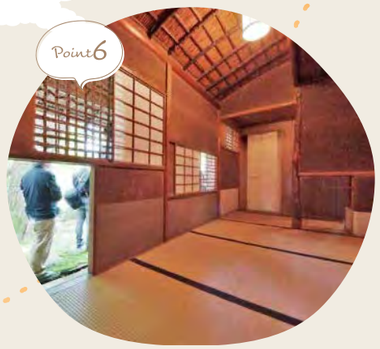
Point4

豪農の館とも呼ばれる広大な名園を
二名の学芸員の案内つきで堪能する

Point5

北方文化博物館の主庭内にあるお茶室のひとつ
茅葺きの積翠庵・是空軒の外観

Point6



通常非公開の積翠庵・
是空軒の内部まで特別拝観し、
しばし閑寂の世界に浸る

Point7

かつて全国に3箇所あったという
三角形のお茶室、
現存は北方文化博物館のみ

Point8

一日かけて観る方も珍しくない
北方文化博物館。
昼食は「みそ蔵」にて

Point9

妻入りの伝統的な町屋など
約70棟が連なる
小須戸町商店街

Point10

小須戸での見学先の一つ「薩摩屋」にて、
ジオラマによる説明を伺う

Point11

小須戸町商店街の
熱心な女性店主に誘われて、
古い茶の間を改造した
酒屋の帳場を見学

Point12

越後と言えば酒蔵めぐり、
見学後はの利き酒と限定販売に
財布の紐も緩みがち
（西蒲区岩室温泉）

Point13

弥彦山の懐に抱かれた宝山酒造のある
岩室温泉周辺は、ゆっくり訪れてみたい

Point14

Goal!

旧赤塚村（西区）の大庄屋
「中原家住宅」玄関前の長い庇のかかった
待合いが往時を語る

大会宣言

Convention declaration

新潟・歴史 まちづくり宣言

第45回全国町並みゼミは、柳都として知られ、中世から開かれた港町・新潟市のまちなかを舞台に2022年6月11～12日の2日間にわたって開催された。心配されたコロナ感染者数もおさまりつつあり、2日間でのべ400名が参加、「市民の活動でつなげる歴史まちづくり：みなとまち新潟から考える」をテーマに、初夏の新潟を満喫しつつ、歴史まちづくりへの新たな展望を開くべくあつい討論を繰り広げた。

新潟は、これまで必ずしも歴史的町並みの都市とは認識されてこなかった。しかし新潟まち遺産の会をはじめとする市民運動が成果をあげ、重要伝統的建造物群保存地区中心の町並み保存とは一線を画する歴史まちづくりの可能性を切りひらきつつある。1日目の昼から始まった分科会は、それら活動に取り組む各団体の担当で運営され、参加者は、新潟まちなかの六地区に分かれ、それぞれまちあるきの後パネルディスカッションに臨んだ。

堀割が縦横にめぐっていた、みなとまち新潟の水環境をとりあげた第1分科会「港町と水辺のまちづくり」では、港町の面影や進取の気質を再認識し、まちづくりに活かすこと、ノスタルジーではなく現代の町並みにこそ必要という観点で水路の復活に取り組むことを確認した。

第2分科会は、小澤家住宅周辺地区を舞台に、歴史的町並みの保存・活用に関する制度が拡充する中「住民による町並み保全制度の選択」をいかに進めるかを話し合った。新潟では、景観計画の特別区域指定を住民提案で実現した経験があり、制度選択の前後に、専門家が正しい知識を住民に伝える支援体制の重要性が指摘された。「見方を増やすことで味方を増やす」「よかった、楽しかった」という声が広がることが、数年後に結実するという、新しいまちづくりの時代を予感させる議論が展開された。

古町には、日本の伝統文化を包括的に継承する「生きた文化的景観」としての花街が継承されている。第3分科会では「花街のまちづくりと文化的景観」をテーマに掲げ、その文化をどう受け継ぐべきかを話し合った。花街文化を都市の魅力を発信する重要な文化歴史的財産として位置づけることで「景観まちづくり」から「空間まちづくり」へ深化する必要性と可能性を確認した。

第4分科会「歴史的環境と芸術文化」も、アートが随所でまちづくりに重要な役割を果たしている新潟ならではのテーマである。周囲から際立つ図としての従来のアートではなく、歴史を刻んだ空間にひそむ心をゆらす、地としてのアートをアートが発見し、発信し、人々の意識や心に働き開ける事例を、東京谷中、新発田、横浜、ダンサー堀川久子さんの思いを通じ話し合い、アートが人をつなげる力を確認した。

第5分科会は、若い世代の出店が相次ぐ白山神社の門前町・上古町商店街を事例に「門前町の商店街に若者が係わる理由」を解き明かすことをテーマとした。上古町では、まちづくりのセンスと意志を持つ若手起業家がまちと出会って出店し、やがて地域の信頼を得て商店街の理事長になり、その姿を見てさらに若い起業家が出店する、という好循環が起きている。その背後には、老舗の大店（旦那衆）が少なく若者のアイディアを受け入れる風土があることを明らかにした。

第6分科会は、信濃川対岸にある新潟島より起源が古いと言われる港町・沼垂と流作場に形成された路地の町・天明町を舞台に「路地のある町をどう安全に、魅力的にしていけるか」をテーマとした。脱炭素社会におけるこのような木造密集市街地の再生の意義、外部の目には魅力的なものが同時に地域の課題であるという矛盾の解き方が話し合われ、同様の課題をかかえる東京・すみだ向島の、空き家となった長屋を改修し、アーティストたちが次々と店を開くという先行事例を学んだ。

夜の交流会は、食事は黙食であったが、食後はブロック別会議や全体の交流が行われ、リアルな会話を通して親交を深めることができた。

2日目は全体会で、開会式、新潟の町並みと歴史まちづくりについての報告の後、芸妓の舞を鑑賞した。そして、奈良、小川町、有松、HULに取り組む倉敷、内子、来年3回目の町並みゼミを開催する小樽からの報告があり、最後に各分科会からの報告を受けその成果を共有した。

午後は、引き続き「にいがた美しいまちなみフォーラム 2022」として、岡本哲志さんの「港町・新潟の価値と可能性：川と海の結節点に描かれた都市空間の履歴」と題する基調講演、そして「歴史を活かしたまちづくり」というテーマでパネルディスカッションが行われる。分科会等で学び討議した内容が整理され、理論化され、歴史まちづくりの新たな展望が開かれることが期待される。

本ゼミは、市民が連携し、都市の歴史をたどり、あらんかぎりの想像力で遺された歴史遺産を活かし、次の時代を切り開くという歴史まちづくりのあり方を描き出す画期的な成果をあげた。参加者一同、その成果を踏まえ、各地域にもどり、歴史まちづくりの大きなうねりを起こすことを決意し、右宣言する。

2022年6月12日
第45回全国町並みゼミ新潟市大会参加者一同

大会決議

Convention resolution

萬代橋周辺の景観についての決議

私たち、第45回全国町並みゼミ新潟市大会参加者一同は、歴史まちづくりをテーマに新潟から多くのことを学びました。その中で、萬代橋周辺の水辺空間の景観のあり方をめぐり、市民の方々から以下の要望が表明されていることを知りました。

新潟市は2007年に「特別区域：信濃川本川大橋下流沿岸地区」を定め川岸の景観を良好なものにしていくための景観基準や、川岸から100メートルの区域に建つ建築物等を50メートル以下とする高さ制限を設けました。

昨年以降、新潟市はこの高さ制限を緩和し、より高層の建築の建設を萬代橋周辺で可能とする提案を新潟市景観審議会に行っています。

重要文化財の萬代橋は新潟の都心軸と自然軸の結節点に位置する町のシンボルであり、萬代橋周辺の水辺景観は水都・新潟市の顔とも言うべき重要性を有しています。制限緩和を拙速に決めることなく、制限緩和で起こりうる景観の変化も詳細に予測し、萬代橋や萬代橋の景観に高い関心を持つ市民、有識者をまじえた十分な検討がなされ、なによりもまず、萬代橋とその周辺の景観のあり方について議論が深められることを求めます。
私たちもまた、この要望を支持することをここに決議します。

2022年6月12日
第45回全国町並みゼミ新潟市大会参加者一同

都市部の歴史ある町や建物の保全を支援する決議

都市部の長屋や路地、町家、歴史的建造物が存続の危機に面しています。

東京都や全国の都市部の歴史的環境を積極的に保全支援する体制を望みます。

1.長屋と路地、町家、屋敷などの既存不適格木造建造物を合法的に活かせる方法を都市部でも普及する。
2.歴史ある建物を代を重ねて住み続け、引き継げる制度、対策を普及する。

2022年6月12日
全国町並み保存連盟関東ブロック
全国町並みゼミ新潟大会一同

「都市部の歴史ある町や建物の保全を支援する決議」本文は全国町並み保存連盟HPに掲載しています。

全国町並み保存連盟加盟団体

Member organizations

1974年に、「町並みはみんなのもの」を合言葉に、「郷土の町並み保存と、より良い生活環境づくり」をめざし、
妻籠、有松、今井町の3団体が集まりました。現在は7つのブロックに分かれて、活動を続けています。

●小樽・朝里のまちづくりの会（北海道小樽市）
●小樽運河新世紀フォーラム（北海道小樽市）
●函館の歴史的風土を守る会（北海道函館市）
●盛岡まち並み塾（岩手県盛岡市）
●増田まちなみ保存会（秋田県横手市）
●会津復古会（福島県会津若松市）
●大内宿保存会（福島県下郷町）
●蔵の会（福島県喜多方市）
●認定NPO法人共楽館を考える集い（茨城県日立市）
●NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会（茨城県龍ケ崎市）
●ディスカバーまかべ（茨城県桜川市）
●栃木蔵街暖簾会（栃木県栃木市）
●NPO法人本一・本二まちづくりの会（群馬県桐生市）
●NPO法人川越蔵の会（埼玉県川越市）
●NPO法人小川町創り文化プロジェクト（埼玉県小川町）
●NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会（千葉県香取市）
●NPO法人たいとう歴史都市研究会（東京都台東区）
●新潟まち遺産の会（新潟県新潟市）
●越後村上・城下町まちなみの会＋むらかみ町屋再生プロジェクト（新潟県村上市）
●NPO法人歴町センター大聖寺（石川県加賀市）
●若狭熊川宿まちづくり特別委員会（福井県若狭町）
●公益財団法人妻籠を愛する会（長野県南木曽町）
●NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会（長野県長野市）
●NPO法人小諸町並み研究会（長野県小諸市）
●一般社団法人恵那市観光協会岩村支部（岐阜県恵那市）
●美濃の町並みを愛する会（岐阜県美濃市）
●一般社団法人飛騨市観光協会（岐阜県飛騨市）
●白川郷荻町集落の自然環境を守る会（岐阜県白川村）
●有松まちづくりの会（愛知県名古屋市）
●NPO法人犬山城下町を守る会（愛知県犬山市）
●足助観光協会（愛知県豊田市）
●NPO法人伊勢河崎まちづくり衆（三重県伊勢市）
●NPO法人二見浦・賓日館の会 （三重県伊勢市）
●あいの会「松坂」（三重県松阪市）
●松阪歴史文化舎（三重県松阪市）
●NPO東海道関宿保存会（三重県亀山市）
●京都東山観光散策道路を守る会（京都府京都市）
●NPO法人京町家再生研究会（京都府京都市）
●京都・美山・北村かやぶきの里保存会（京都府南丹市）
●港まち神戸を愛する会（兵庫県神戸市）
●霞城文化自然保勝会（兵庫県たつの市）
●口銀谷の町並みをつくる会（兵庫県朝来市）
●豊岡まちなみ連盟（兵庫県豊岡市）
●公益社団法人奈良まちづくりセンター（奈良県奈良市）
●今井町町並み保存会（奈良県橿原市）
●NPO法人倉敷町家トラスト（岡山県倉敷市）
●吹屋町並保存会（岡山県高梁市）
●かもがた町家管理組合（岡山県浅口市）
●NPO法人鞆まちづくり工房（広島県福山市）
●こんぴら門前町を守る会（香川県善通寺市）
●風の港まちづくりネットワーク（香川県東かがわ市）
●脇町南町町並保存会（徳島県美馬市）
●内子町八日市護国地区町並保存会（愛媛県内子町）
●地域ネット研究会ＵＷＡ（愛媛県西予市）
●NPO法人吉良川町並み保存会（高知県室戸市）
●宿場木屋瀬街づくりの会（福岡県北九州市）
●一般社団法人内野地区活性化協議会（福岡県飯塚市）
●八女福島町並み保存会（福岡県八女市）
●黒木地区町並み保存協議会（福岡県八女市）
●NPO法人小保・榎津 藩境のまち保存会（福岡県大川市）
●あづち大島たからもんの会（長崎県平戸市）
●NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会（佐賀県鹿島市）
●町並みとまちづくりを考える大分県民の会（大分県）
●戸次本町街づくり推進協議会（大分県大分市）
●臼杵の歴史景観を守る会（大分県臼杵市）
●油津堀川運河を考える会（宮崎県日南市）
●美々津の歴史的町並みを守る会（宮崎県日向市）
●竹富島まちなみ保存調整委員会（沖縄県竹富町）
●社團法人台灣歴史資源經理學會（台湾）

新潟県まちなみネットワーク会員団体

Member organizations

今回の全国町並みゼミ2日目午後に「にいがた美しいまちなみフォーラム2022」が開催されましたが、
新潟県まちなみネットワークはこれを県と共催しています。会費はなく、フォーラムと同時開催される毎年の大会での交流が主な活動です。
構成団体は上・中・下越・佐渡全体に分布し、佐渡については佐渡まちなみネットワークとして、一括で加盟しています。

《 上越 》
●糸魚川レンガ車庫保存・活用研究会
●直江津プライド2021
●上越市南本町三丁目まちづくり協議会
●越後高田・雁木ねっとわーく
●浄興寺大門通りまちづくり協議会
●高田寺町まちづくり協議会
●NEO浄興寺プロジェクト
●(一社)雁木のまち再生
●NPO法人街なみFocus
●NPO法人高田簪女の文化を保存・発信する会
●NPO法人街なか映画館再生委員会

《 中越 》
●湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会
●裸押合大祭記録保存実行委員会
●つむぎ通り町づくり懇談会
●牧之通り組合
●赤レンガ棟を愛する会
●長岡観光コンベンション協会
●子どもたちのための古民家再生委員会
●出雲崎妻入りの街並景観推進協議会
●三条まちづかいの会
●燕三条プライドプロジェクトツーリズムグループ

《 下越 》
●小俣ふるさと楽校
●越後・むらかみ・城下町まちなみの会
●村上トライあんぐる
●村上町屋商人会
●チーム黒壁プロジェクト
●塩谷活性化推進協議会
●新発田まち遺産の会
●城下町新発田まちづくり協議会
●つがわ狐の嫁入り行列実行委員会
●五十嵐邸ガーデン
●環翠楼
●新潟まち遺産の会
●にいがた寺町からの会
●NPO法人堀割再生まちづくり新潟
●まちなかの文学を歩く会
●roji－ren niigata
●古町花街の会
●旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会
●発酵食品の街・沼垂
●NPO法人いわむろや
●しろね町屋あるき研究会
●新潟市景観ネットワーク

《 佐渡 》
●佐渡まちなみネットワーク（相川ふれあいガイド / 相川まちづくり実行委員会 / 相川みちしるべ / 岩首棚田 とき共生みらい / NPO法人相川京町町並み保存センター / 上相川を守る会 / 京町通りを守る会 / NPO法人佐渡の歴史と景観を守る会 / NPO法人みなと昭和館 / 小木ふれあいガイド / 小木湊まちなみの輪 / 風待ちの会 / 笹川の景観を守る会 / 佐渡金銀山古道を守る会 / 佐渡國しま海道 / 佐渡を世界遺産にする会 / 沢根元気プロジェクト / 宿根木を愛する会 / 町人文化の街おぎ振興組合 / 鶴子銀山へ続く道を歩こう / 七浦社中 / 新穂銀山友の会 / 白山丸友の会 / 望楼のある港景観を守る会 / 松夢会）

《 その他 》
●新潟県観光カリスマ会議
●にいがた庭園街道ネットワーク

全国町並みゼミの開催地とテーマ

Venue & Theme

2021 第44回 奈良大会（奈良県奈良市）〈ハイブリッド〉
まちの資産の～なにを、だれが、どのように～

2020 第43回 桜川市真壁大会（茨城県桜川市真壁）〈オンライン〉
これからの町並み保存とは?
～たび重なる災害からの復旧と新しい生活様式の中で

2019 第42回 川越大会（埼玉県川越市）
歴史都市のこれから
～過去に学び、今を見つめ、未来を思い、共に歩む～

2018 第41回 長野松代・善光寺大会（長野県長野市）
町並みを守って歴史文化のまちづくり
～次世代へ・未来へ、伝える・ つなぐ～

2017 第40回 名古屋有松大会（愛知県名古屋市有松）
町並みはわたしが守る、みんなのものから40年

2016 第39回 大内・前沢大会（福島県下郷町大内宿・南会津町前沢集落）
町並みを次の世代へ ～保存と暮らしの共存～

2015 第38回 豊岡大会（兵庫県豊岡市）
ふるさとよみがえりへの想い ～コウノトリ舞う豊岡にて～

2014 第37回 鹿島・嬉野大会（佐賀県鹿島市・嬉野市）
つなごう歴史遺産 みがこう町並み文化

2013 第36回 倉敷大会（岡山県倉敷市）
つながる地域文化の伝統と創造 ～備中の風土力の発信～

2012 第35回 福岡大会（福岡県福岡市）
地域遺産の再発見と街の魅力創出
～福岡から生かそう町並みとアジア文化～

2011 第34回 飛騨市大会（岐阜県飛騨市）
つなごう歴史の町づくり ～飛弾の匠の技と心を伝えよう～

2010 第33回 盛岡大会（岩手県盛岡市）
暮らしの息づく町並み ～住民による歴史まちづくり～

2009 第32回 佐原・成田大会（千葉県香取市佐原・成田市）
歴史的資源を生かしたまちづくり

2008 第31回 卯之町大会（愛媛県西予市卯之町）
だんだん学ぼう よもよも人づくり

2007 第30回 伊勢大会（三重県伊勢市）
伝えよう、心とかたちの町並み文化

2006 第29回 八女福島大会（福岡県八女市）
未来へ継承ずるぞ、町並み文化

2005 第28回 美濃大会（岐阜県美濃市）
とりもどそまいか、町並みの賑わい

2004 第27回 大聖寺大会（石川県加賀市大聖寺）
ゆったりと行こう、あったらもんと共に

2003 第26回 今井大会（奈良県橿原市今井町）
再び、町並みはみんなのもの

2002 第25回 鞆の浦大会（広島県福山市鞆）
見ようや!ふるさとの文化～文化で生活（めし）がくえるかのう～

2001 第24回 小樽大会（北海道小樽市）
21世紀・新しいまちづくりの手法と展望

2000 第23回 日南大会（宮崎県日南市）
文化財保護法50年、伝えよう文化財の町並み

1999 第22回 臼杵大会（大分県臼杵市）
町並み・環境・まちづくり、今ふたたび臼杵から

1998 第21回 東京大会（東京都）
日本の町並み 東京の町並み

1997 第20回 村上大会（新潟県村上市）
ひとなみ・町並み・まちづくり

1996 第19回 犬山大会（愛知県犬山市）
みんなで考えよう、保存・育成・創造の町づくり

1995 第18回 妻籠大会（長野県南木曽町妻籠）
町並み保存の原点を、みんなで喋り考えよう

1994 第17回 須坂大会（長野県須坂市）
明日にはぐくむ、町並みの輪

1993 第16回 川越大会（埼玉県川越市）
武州・川越町並み博、あれから百年、これから百年"

1992 第15回 吉井大会（福岡県吉井町）
町並み再発見・ゆとりと調和

1991 第14回 角館大会（秋田県角館市）
町並みは、お祭のこころ

1990 第13回 京都大会（京都府京都市）
町並みはんなり・歴史都市

1989 第12回 栃木大会（栃木県栃木市）
生かそう蔵の町"

1988 第11回 竹富大会（沖縄県竹富島）
語ろう町並み、広げよう"うつぐみ"の輪

1987 第10回 松阪大会（三重県松阪市）
生活文化としての町並みを考える

1986 第9回 会津大会（福島県会津若松市・下郷町大内宿）
町並みと商人文化の創造

1985 第8回 龍野大会（兵庫県龍野市）
残そう、町並みの心と形

1984 第7回 大平大会（長野県飯田市大平宿）
町ぐるみ語れ! 町並みこそふるさと

1983 第6回 臼杵大会（大分県臼杵市）
町並みに誇りと息吹と未来とを

1982 第5回 東京大会（東京都）
語ろう、明日の町並み町づくり

1981 第4回 琴平大会（香川県琴平町）
息づけ! 町並みの顔

1980 第3回 小樽・函館大会（北海道小樽市・函館市）
あたらしい町自慢の創造を

1979 第2回 近江八幡大会（滋賀県近江八幡市）
明日へ活かそう、われらの遺産

1978 第1回 有松・足助大会（愛知県名古屋市有松・足助町）
町並みはみんなのもの

実行委員会・スタッフ

Executive committee & Staff

〈 実行委員 〉
天本浩未（T-Base-Life）
伊藤純一 ※（日本建築家協会関東甲信越支部新潟地域会）
石田高浩（小須戸ARTプロジェクト実行委員会）
伊里浩（北方文化博物館）
大倉宏 ※（西大畑旭町文化施設協議会（異人池の会）、
新潟歴史まちづくり推進協議会、新潟県まちなみネットワーク、
全国町並み保存連盟）
岡崎篤行 ※（新潟大学、古町花街の会、新潟歴史まちづくり推進協議会、
新潟県まちなみネットワーク、全国町並み保存連盟）
小倉壮平（にしかんPROJECT（仮）実行委員会）
小澤櫻子（旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会）
金親顕男（古町花街の会）
上山寛（かめだ学会）
川上伸一（堀割再生まちづくり新潟）
神田剛（新潟シティガイド）
久保有朋 ※（古町花街の会、古町花街地区防災会）
迫一成（新潟市上古町商店街振興組合）
清野拳斗（新潟商工会議所）
関由有子（新潟県まちなみネットワーク）
瀬戸智（新潟県建築士会ヘリテージマネージャー特別委員会）
高須雅史（旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会）
高橋覚（味方地区コミュニティー協議会）
徳永健一（郷土の文化に親しむ会）
野内隆裕（路地連新潟）
長谷川順一 ※（日本民家再生協会、建物修復支援ネットワーク）
平原悟（にいがた庭園街道ネットワーク）
前川周作（古町花街エリアプラットフォーム）
松井大輔 ※（新潟大学、旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会）
山本玲子（全国町並み保存連盟）
渡辺斉（新潟県建築士会）

〈 実行委員会役員、事務局（前掲以外） 〉
委員長：大倉宏
副委員長：小澤瓔子、金親顕男、岡崎篤行
監査委員：徳永健一、澤村明 ※
事務局長：伊藤純一
会計：千早和子 ※
名簿：大倉則子
編集：宮島悠夏

※印：新潟まち遺産の会世話人
（株式会社、NPO法人、社団、財団など団体の法人名は略しました）

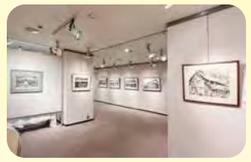
〈 その他スタッフ 〉
嶋田正章、阿部信夫、高橋誠一、佐藤朗、中山博志、難波明日香、倉地一則、小野塚昭美、藤田普、加藤健二、梅川尚紀、阿部由香里、鷲尾雄二、若崎敦朗、山賀和真、冨樫南、佐藤雅義、西野廣貴、栗原優佳、田中丈士郎、田中裕利子、柴山慶子、佐藤帆乃香、上村和美、清水美和、小川純子、阿部千恵子、羽賀五郎、高崎寛、井上美雪、小幡友樹、荒井哲、井口哲一、金巻栄作、上村健一、小寺嘉信、二瓶芳枝、平野マサ子、柴野雅子、小島隆、長谷川春菜、八木洋、近藤勲、針貝博明、浅野和雄、渡辺博、田中鞠子、荒木信夫、山形吉一、亀貝太治、星井栄吉、田代雄一、中島健一、梨本諦嗚、阿部毅

関連イベント

Associated event

●砂丘館「新潟の肖像1955-70 斎藤應志展」

●新潟大学あさひまち展示館企画展「伝統文化を継承する花街の空間」


●画廊イタリア軒「星伸二展奈良の町屋を描く」

●新潟市歴史博物館「にいがた近代建築パネル展」

新潟市大会の後援団体

Supporting organizations

国土交通省、農林水産省、文化庁、観光庁、新潟県、新潟市、新潟県まちなみネットワーク
公益財団法人日本ナショナルトラスト、公益財団法人文化財建造物保存技術協会、公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟、
公益社団法人日本建築士会連合会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本造園学会、公益社団法人日本都市計画学会、
公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、一般社団法人日本イコモス国内委員会、
一般社団法人日本建築学会、全国伝統的建造物群保存地区協議会、歴史的景観都市協議会

あとがき

Postscript

本報告書は、新潟まち遺産の会世話人が中心となり、実行委員の方にも加わって頂き執筆しました。執筆者は別記のとおりで、編集は岡崎・宮島が担当し、世話人会で議論しながら制作しました。写真は実行委員の他、全国町並み保存連盟常任理事の荒牧澄多さんからご提供頂きました。

今回の大会は、中心部の港町新潟のみでなく、合併して政令市になった新しい新潟市全体として全国の皆様をお招きしたいとの思いから「新潟市大会」とした次第です。毎年、新潟県と新潟県まちなみネットワークとでフォーラムを共催している経験を活かし、本大会も連続するイベントとして開催しました。お陰様で限られた予算と市民スタッフのみで実施することができました。新潟県、新潟市にはオブザーバーとしてご協力頂きました。登壇者の選定に際しては、女性や若い方になるべく加わって頂くよう努めました。新型コロナウィルスのため、通常通りの懇親会で新潟の銘酒を召し上がって頂けなかったのが残念ですが、再訪の折りには古町の夜もご堪能頂ければ幸いです。なお、大会前日には砂丘館にて連盟総会も開催されました。歴史都市のイメージが全国的のみならず地元においてさえも弱い新潟ですが、これを契機に市内の各団体と連携し、歴史まちづくりを進めていきたいと思います。

●大会前日の総会

●まちあるきの打合せ

●大会本部にて宣言文とりまとめ

●全体会の舞台袖

「第45回全国町並みゼミ新潟市大会 報告書」：令和4年12月17日発行
執筆：伊藤純一、大倉宏、岡崎篤行、川上伸一、久保有朋、長谷川順一、松井大輔、山本玲子
発行：第45回全国町並みゼミ新潟市大会実行委員会
デザイン・編集・印刷：カメガイアートデザイン

表紙：小林春規「蒲鉾屋」（下町の丁字型町屋）2000年、木版画、21.5×28.5cm